

令和7年度
知床国立公園における海鳥の分布
調査等業務



2026年3月
特定非営利活動法人 バードリサーチ

目次

1. 業務概要 (2 p)
 - 1-1. 目的 (2 p)
 - 1-2. 業務内容 (2 p～3 p)
2. 業務結果 (4 p)
 - 2-1. 羅臼側における海鳥の分布調査 (4 p)
 - 2-1-1. 陸上からの海鳥分布調査
 - <調査範囲> (4 p) <調査方法> (4p)
 - 羅臼側陸上からの海鳥調査時の気象条件 (5 p)
 - <調査結果および考察> (6p～31p)
 - 1) 各区域と調査日の結果考察 (6 p～20 p)
 - 2) 各鳥種についての各論 (21 p～31 p)
 - 2-1-2. 海上からの海鳥分布調査 (32 p～38 p)
 - <調査範囲> (32 p)
 - <調査方法> (33 p)
 - <調査結果および考察> (33p)
 - 1) 各区域と調査日の結果考察 (36 p)
 - 2-1-3. まとめ (35 p)
 - 観光船からの補足調査 (34 p～35 p)
 3. ケイマフリ生息状況調査 (36 p～45 p)
 - 3-1. ケイマフリ海上分布 (36 p～p)
 - <調査方法> (36 p)
 - <調査結果> (37p～38 p)
 - 3-2. ケイマフリ繁殖状況調査 (39 p～48 p)
 - <調査方法> (39 p)
 - <調査結果> (40 p～42 p)
 - 3-3. ケイマフリ餌資源調査 (43p～45 p)
 - 3-4. ケイマフリ生息状況についての考察 (45 p)
 4. 知床半島ウトロ地域における海鳥繁殖のオジロワシ生息調査 (46 p～48p)
 - <調査目的> (46 p)
 - <調査方法> (47 p)
 - <調査結果> (57p)
 - <考察> (47p)
 - 5 知床半島における海鳥の営巣状況 (49 p～59 p)
 - 調査結果と各海鳥の営巣状況と考察 (50p～59 p)
 - 6 知床世界自然遺産地域科学委員会海域ワーキンググループの資料案の作成 (60p～72p)

1. 業務概要

1-1. 目的

知床国立公園の海域は、北半球で最も低緯度に位置する季節海氷域であり、流氷の影響を大きく受けた特異な生態系の生産性が見られるとともに、海獣類のトドやアザラシ・鯨類のシャチやマッコウクジラなど多様な海棲哺乳類、南極や北極をはじめ北から南から飛来する海鳥類にとって世界的に重要な地域である。

近年、地球温暖化等による海水温の変化による海棲生物の分布や生息が急激に変化していく事が危惧されている。このような生態系の変化を指標する上で、海鳥にとって地球規模でグローバルに移動する海鳥の中継海域である羅臼海域は、その動向を監視するモニタリング海域としても重要であると考えられる。

一方、知床半島沿岸の海域においては、漁業や観光利用がなされていることから、海鳥類の保護と利用の両立を図ることが求められており、知床半島に生息する海鳥類の生息数や営巣地分布、営巣数などのモニタリングを行う必要がある。

本業務は、「第4期知床世界自然遺産地域多利用型統合的・海域管理計画」及び「知床世界自然遺産地域第2期モニタリング計画」に位置付けられたモニタリングの一環として、知床国立公園及び隣接海域において海鳥の生息状況や繁殖状況を調査することを目的とする。

1-2. 業務内容

(1) 羅臼側における海鳥の分布調査

知床国立公園の羅臼海域（知床岬から峯浜町沿岸）における海鳥の分布等を把握するため、下記①及び②に定める調査等の実施及び調査結果のとりまとめを行う。調査にあたり、環境省担当官と調整のうえ、調査計画を作成すること。調査日は調査の実施に適した日（天候が良い日等）とすること。調査にあたっては、海鳥の営巣・繁殖に影響を与えないように細心の注意を払うこと。調査には別添調査用紙を用いること。調査項目は、次の項目を基本とし、環境省担当官と調整の上決定すること。

- ・ 調査時刻
- ・ 海水温、気温、天候、風向、風速、波高（インターネット等で調査も可）
- ・ 種（雌雄、幼鳥、エクリップスの可否等可能な限り詳細に）
- ・ 希少種（絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律に基づく国内希少野生動植物種、鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律に基づく希少鳥獣、環境省及び北海道レッドリストに登録された種等）としての登録区分
- ・ 個体数
- ・ 海鳥を発見した場所、観測した場所
- ・ 海鳥の特徴的な行動等のその他特記事項

① 陸上からの海鳥分布調査

羅臼町内の海域（相泊～峯浜町）及びその沿岸において、海鳥分布調査を4月～3月の間、計24回程度実施すること。

また、調査にあたっては、知床国立公園及びその近隣海域における海鳥の調査経験並びに鳥類の分布等の知識、さらに、海鳥類（ミズナギドリ類やアビ類など）の識別能力を有する調査者（以下、「調査者」という）及び海鳥の調査経験を有する調査補助者（以下、「補助者」という）を配置すること。

なお、積雪や災害により道路が閉鎖された場合など、やむを得ず調査ができない場合は、環境省担当官と協議の上、調査回数を変更することも可とする。

② 海上からの海鳥分布調査

羅臼町内の海域（知床岬～相泊沖）及びその沿岸において、海鳥分布調査を6月～7月の間、月2回程度実施すること。①と同一の調査者及び補助者を配置すること。調査地点までは船舶を用いて移動し、船舶上から調査を行うこと。使用する船舶は環境省担当官及び調査者と調整の上、請負者にて手配すること。なお、海上の状況が悪い場合など、やむを得ず調査ができない場合は、環境省担当官と協議の上、調査回数を変更することとする。

③ ケイマフリの生息状況調査

6月上旬から8月中旬までの期間において、洋上からの調査を実施する（週1～2回、合計10回程度）。調査区域はウトロ港からエエイシレド岬までとし、海岸から約1kmの範囲について調査を行う。調査は、小型船舶を利用して2～4ノットの速度で航行し、左右両舷前方の海上及び陸上にて発見したケイマフリの個体数・位置などの情報を記録する。調査ルートについては、ウトロ港からプユニ岬間は直線的に航行し、プユニ岬からエエイシレド岬間については、往路は約50m～100m沖を、復路は約400m沖を航行してカウントし、ケイマフリの採食状況を確認した場合は、目視又は写真判定により餌資源を同定し記録する。

ケイマフリの繁殖状況調査

6月上旬から8月中旬までの期間において、洋上からの調査を実施する（週1～2回、合計10回程度）。調査区域はプユニ岬からエエイシレド岬までとする。調査は、営巣環境である崖が見通せる海上で停泊し、巣に出入りする親鳥を観察し巣の位置と数を記録する。

④ オジロワシの生息分布状況調査

6月上旬から8月中旬までの期間において、洋上からの調査を実施する（週1～2回、合計10回程度）。調査区域はプユニ岬からエエイシレド岬までとする。調査は、(ア)(イ)の調査時に発見したオジロワシについて、成長・亜成鳥・幼鳥（当年生まれの個体）の3区分に分け、個体数・位置などの情報を記録する。なお、オジロワシによる海鳥の捕食等の行動が見られた際は、位置や捕食対象種等の特記すること。

2. 業務結果

2-1. 羅臼側における海鳥の分布調査

2-1-1. 陸上からの海鳥分布調査

<調査範囲>

羅臼町内の沿岸およびその海域（峯浜沖～相泊沖）。平成 27 年度の調査結果をもとに下記①～⑮のとおり調査地点を選定した。①峯浜（駐車帯）、②春日町（春茹古丹橋・消火栓春日 2）、③麻布漁港、④松法漁港、⑤礼文（礼文・羅臼道の駅）、⑥羅臼港、⑦ロウソク岩（材木岩トンネル北出口）、⑧サシルイ、⑨天狗岩、⑩知円別（知円別トンネル北出口・知円別港）、⑪北浜覆道、⑫ルサ（ルサフィールドハウス・知床橋）、⑬昆布浜、⑭セセキ岩、⑮相泊（相泊港）

<調査方法>

図-3～17 中の区域上で安全に駐車でき、また住民の生活の支障にならない場所を観察ポイントとした（図-3～17 の赤丸）。

調査日の設定は、できるだけ天候の良い、観察に適した光線の良い日の午前中を選んで 4 月～翌年 3 月まで月 2 回陸上からの観察を行った。各調査日および調査時の気象条件については、陸上からの海鳥調査時の気象条件（表-1）に示した。

調査には、防振双眼鏡 12 倍と望遠鏡 20 倍～60 倍を利用し、見える範囲に出現したすべての海鳥、海棲哺乳類の種名、個体数を記録した。なお、気象条件等により観察条件は変化した。調査条件のうち海水温など実地で不明であった事項は、日本気象協会のホームページ（https://www.data.jma.go.jp/kaiyou/shindan/index_sst.html）から引用した。

表-1) 羅臼側陸上からの海鳥調査時の気象条件

日付	天候	波高	海水温(平年比)	気温	風向	風速	種類数	個体数
4月9日	曇り	0.5m	海水あり	6.3°C	北北西	4.3m/s	11種	907
4月28日	晴れ	1m	3°C(+1°C)	7.2°C	東南東	2.3m/s	12種(sp.含む)	2,686
5月13日	曇り	1m	6°C(+1°C)	9.5°C	東南東	3.1m/s	14種(sp.含む)	82,551
5月28日	晴れ	1m	6°C(+1°C)	12.5°C	東南東	3.1m/s	10種(sp.含む)	1,015
6月18日	晴れ	1m	9°C(+2°C)	22.6°C	南南東	2.7m/s	5種	1,500
6月21日	曇り	1.5m	12°C(+3°C)	21.5°C	東南東	2.2m/s	4種	975
7月17日	曇り	0.5m	18°C(+5°C)	24.8°C	南東	3.0m/s	8種(sp.含む)	1,032
7月28日	曇り	1m	15°C(+6°C)	20.3°C	南南東	1.8m/s	7種(sp.含む)	1,897
8月18日	晴れ	1m	21°C(+3°C)	23.9°C	南東	3.4m/s	5種	903
8月29日	曇り	1m	18°C(+2°C)	21.8°C	南東	2.8m/s	5種	1,238
9月9日	曇り	1m	18°C(+2°C)	22.3°C	東南東	3.6m/s	8種	1,101
9月26日	曇り	1m	18°C(+1°C)	20.3°C	南南東	0.7m/s	11種	1,589
10月16日	曇り	1.5m	15°C(+1°C)	10.7°C	東南東	1.5m/s	11種(sp.含む)	869
10月28日	晴れ	1.5m	12°C(+1°C)	8.9°C	北西	3.3m/s	12種(sp.含む)	4,466
11月19日	曇り	1.5m	9°C(0°C)	1.9°C	北北西	6.5m/s	13種	3,725
11月25日	晴れ	0.5m	6°C(0°C)	8.1°C	南南東	3.1m/s	13種(sp.含む)	5,378
12月17日	晴れ	0.5m	3°C(0°C)	-1.5°C	南東	2.3m/s	12種(sp.含む)	1,487
12月30日	曇り	0.5m	3°C(0°C)	4.2°C	東南東	1.2m/s	17種	968
1月11日	晴れ	1m	3°C(0°C)	5.7°C	西南西	1.3m/s	10種	1,020
1月29日	晴れ	1m	海水あり	-3.6°C	北北西	2.7m/s	14種(sp.含む)	1,370
2月18日	晴れ	0.5m	海水あり	-0.7°C	南東	3.3m/s	10種	1,140
2月24日	晴れ	0.5m	海水あり	1.1°C	北西	4.5m/s	10種	1,237
3月5日	曇り	0.5m	海水あり	3.1°C	南南東	4.6m/s	7種	958
3月6日	晴れ	0m	海水あり	1.1°C	南南東	3.2m/s	4種	685



図 - 1) 天狗岩の調査地点 (2026年3月8日)

<調査結果及び考察>

1) 羅臼側各区域と調査日の結果考察

① 峯浜地区



図-2) 峯浜地区調査地点

表 - 2) 峯浜地区で観察された海鳥

鳥種\月日	4/9	4/28	5/13	5/28	6/18	6/21	7/17	7/28	8/18	8/29	9/9	9/26	10/16	10/28	11/19	11/25	12/17	12/30	1/11	1/29	2/18	2/24	3/5	3/6	合計
1 ハムsp.			1																						1
2 シロエリオオハム				1																					1
3 アカエリカイツブリ					1										1	10									11
4 カイツブリsp.																	2								2
5 ミズナギドリsp.								100																	100
6 ウミウ			1				1		1	1		22													26
7 ヒメウ	5	1	2				1							1	1	2	1	1	1			4			20
8 ヒドリガモ	5																								5
9 クロガモ		4										4				44		12			17	40			121
10 シノリガモ	5	288								6				4		7	3	10						1	324
11 ウミアイサ	18	8	3												2			8				4			43
12 カワアイサ																									2
13 ユリカモメ														2	2	1	1								6
14 オオセグロカモメ	2	28	3	2		11	117		8		21	6			10	17	107	2	2	2	4	6	2	4	354
15 ウミネコ		2					55		27	32	8	3	1					1							129
16 カモメsp.								83									200								283
17 ウミガラス																			1						1
18 ケイマフリ																	1								2
19 ウトウ	20		2				93	8													1				123
種類数	5	6	5	2	0	1	4	2	3	3	2	4	1	4	4	8	5	7	2	3	4	1	2	2	18
合計	60	337	17	5	0	12	271	193	39	42	31	39	2	13	18	290	119	42	5	23	56	7	5	8	1634

知床半島の基部になり、根室海峡のなかで最も国後島と近い位置にある。半島から急激に水深が浅くなり海流の流れによっては湧昇流が起こりプランクトンや魚類が集まりやすい海域である。遠浅ということもあり潜水性で底生生物を捕食する潜水採餌型のクロガモとシノリガモが多く観察された。特に4月28日にはシノリガモが288羽確認された。カモメ類も多く7月17日には、オオセグロカモメ約100羽を中心に鳥山ができており、海面に小魚などが集まっていたと思われる。またウトウが4月28日に20羽、7月17日に93羽確認された。この種の繁殖期にあたるが知床半島では繁殖例がなく、おそらく国後島や歯舞諸島などで繁殖している個体であると考えられる

②春日町地区



図-3) 春日町地区調査地点

表 - 3) 春日町地区で観察された海鳥

鳥種\月日	4/9	4/28	5/13	5/28	6/18	6/21	7/17	7/28	8/18	8/29	9/9	9/26	10/16	10/28	11/19	11/25	12/17	12/30	1/11	1/29	2/18	2/24	3/5	3/6	合計
1 ハムsp.				2																					2
2 ミミカイツブリ															3										3
3 ウミウ					1				6																7
4 ヒメウ	2	2	1	1	2	1								1	4	6	3			2		1			26
5 ホオジロガモ	4																								4
6 シノリガモ	8		2											2		7	2	6	3	4	224	20	2	2	282
7 ピロードキンクロ															12										12
8 ウミアイサ	9		14											52											75
9 カワアイサ																			1						1
10 ユリカモメ	2		65											25											92
11 セグロカモメ													2												2
12 オオセグロカモメ	12	6	60	73	70	120	79	118	40	126	10	16		24	15	10	9	2	5	2	1	1		2	801
13 カモメ															6										6
14 ウミネコ	3			4	13	46	14	16	22	22	100	24		291											555
15 ミツユビカモメ				4							12			10											26
16 ウトウ				6		2		15																	23
17 アオサギ									2			1													3
合計	40	8	142	90	86	169	93	149	70	148	122	41	0	407	40	23	14	8	11	6	226	21	2	4	1920
種類数	7	2	5	6	4	4	2	3	4	2	3	3	0	8	5	3	3	2	4	2	3	2	1	2	17

春荻古丹橋と消火栓春日2のある海岸の2ヶ所で調査した。春荻古丹川の河口ではカモメ類が水浴や水飲みのために集まっており、オオセグロカモメが優占種で次にウミネコの個体数が多かった。なお春荻古丹川の河口の観察ポイントでは冬期は積雪のため入れなく12月17日～3月6日まで調査できなかった。2カ所の環境の違う場所で調査をしたため個体数と種類とも多かった。10月28日には渡りの途中だと思われるウミネコが291羽確認された。2月18日にはシノリガモが224羽確認された。

③八木浜地区

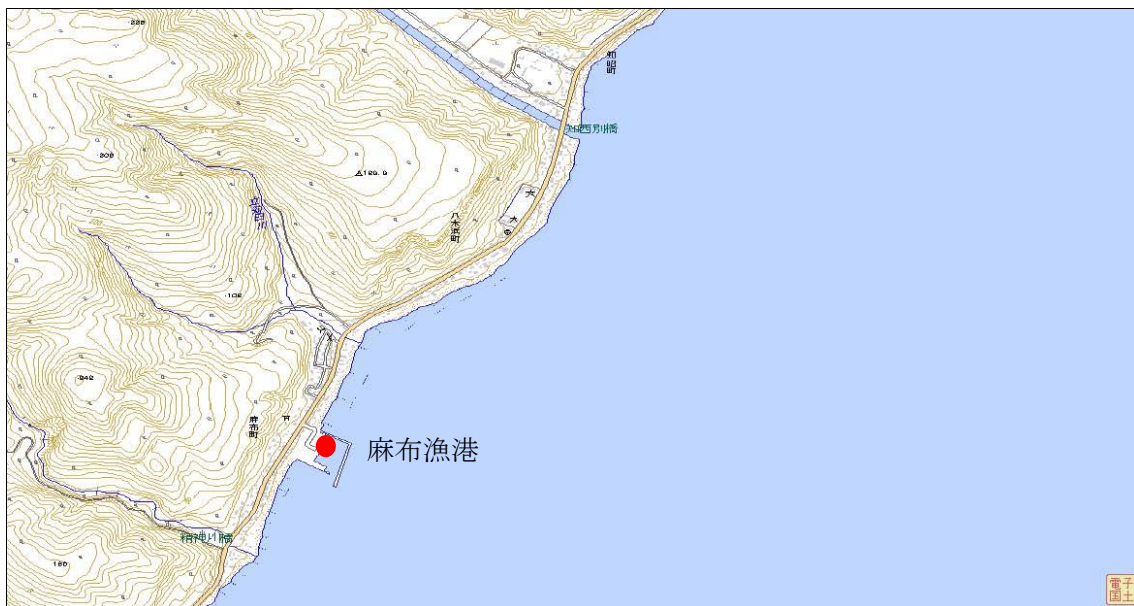


図-4) 八木浜地区調査地点

表 - 4) 八木浜地区で観察された海鳥

鳥種\月日	4/9	4/28	5/13	5/28	6/18	6/21	7/17	7/28	8/18	8/29	9/9	9/26	10/16	10/28	11/19	11/25	12/17	12/30	1/11	1/29	2/18	2/24	3/5	3/6	合計
1 ウミウ										12	5														17
2 ヒメウ																								2	2
3 シノリガモ																4	4	6	1	2					17
4 ユリカモメ		1										1	45	69		500									616
5 セグロカモメ																		1	2						3
6 オオセグロカモメ	23	92	34	41	46	14	34	58	86	32	64	143	115	184	81	300	36	16	22	150		8	6	4	1589
7 シロカモメ															1		4	12		15		1			33
8 ウミネコ						1	4	2	26	19	4	10	4	33				1							104
9 ワシカモメ															1			1							2
10 アオサギ								1																	1
合計	23	93	34	41	46	15	38	61	112	63	73	154	164	286	83	804	45	36	25	167	0	9	8	4	2384
種類数	1	2	1	1	1	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	4	5	3	3	0	2	2	1	10

主に麻布漁港の防波堤の上から観察を行った。1月から3月までは積雪のため堤防上に登れないため麻布漁港内のみでの観察となった。水産加工場に面した砂浜と消波ブロックにオオセグロカモメを中心としたカモメ類が多く集まっていた。特に砂浜には多くのカモメ類が休息していた。渡りの時期の11月25日には渡り途中のユリカモメが500羽確認された。この地区は、漁港と水産加工場に隣接していることから、漁船からの魚の搬出などの活動にカモメ類の個体数が左右されていた。

④松法地区



図-5) 松法地区調査地点

表-5) 松法地区で観察された海鳥

鳥種\月日	4/9	4/28	5/13	5/28	6/18	6/21	7/17	7/28	8/18	8/29	9/9	9/26	10/16	10/28	11/19	11/25	12/17	12/30	1/11	1/29	2/18	2/24	3/5	3/6	合計	
1 ウミウ										1															1	
2 ホオジロガモ															2			3							5	
3 ワシカモメ												1											1		5	
4 シノリガモ													16	26	57	2	14								115	
5 ユリカモメ		182																							182	
6 ウミネコ										86	16	1	113	1											217	
7 ヒメウ	2												8	155	100	31	31	13					12		4	356
8 オオセグロカモメ	52	10	56	45	6	12	11	22	24	43	71	30	55	259	101	5	34	58	71	77	22	96	54	38	1252	
合計	54	192	56	45	6	12	11	22	24	44	157	47	56	396	288	162	67	106	84	77	22	108	55	42	2133	
種類数	2	2	1	1	1	1	1	1	1	2	2	3	2	4	6	3	3	4	2	1	1	2	2	2	8	

松法漁港での観察を行った。オオセグロカモメが優先種で、漁港に入港する漁船からこぼれる魚を狙って集まることが多く、船着き場で休んでいる個体も多く見られた。ヒメウは冬期間に漁港の堤防にへばり付くように止まっているものが観察された。最大個体数は11月19日の155羽で次いで11月25日の100羽であった。ヒメウは警戒心が強く防波堤にとまる個体は船舶の航行に左右されることが多かった。11月28日には渡り途中だと思われるウミネコ113羽が確認された。

⑤礼文町



図-6) 礼文町区域調査地点

表-6) 礼文町地区で観察された海鳥

鳥種\月日	4/9	4/28	5/13	5/28	6/18	6/21	7/17	7/28	8/18	8/29	9/9	9/26	10/16	10/28	11/19	11/25	12/17	12/30	1/11	1/29	2/18	2/24	3/5	3/6	合計
1 アカエリカイツブリ															1										1
2 ウミウ	1							4					4	15		1				1					26
3 ヒメウ		2											2		28	182	15	5	9						243
4 オオハクチョウ																				2					9
5 ヒドリガモ	3	4																							7
6 シノリガモ	22	6	4	1									2	3	16	22	18	32	40	32	29	81	37	96	441
7 ウミアイサ	9	24	28																	25	5	2	2		95
8 カワアイサ																				2		4			6
9 ユリカモメ	42	35	41											230	1250	1000	69	1							2666
10 セグロカモメ															5		1	2	2						10
11 オオセグロカモメ	73	140	237	238	265	42	21	523	27	65	100	55	77	225	672	600	584	145	453	225	110	128	162	34	5201
12 シロカモメ																		1	3	8					12
13 カモメ											4		1					23	50			40			118
14 ウミネコ	2		3		2			98	14	162	102	200	216	802	153	4	1								1759
15 ワシカモメ													1	1						1					4
16 ミツユビカモメ											4														4
17 ウトウ					2																				2
合計	152	211	313	239	269	42	21	625	41	227	202	263	302	1277	2125	1809	690	210	559	299	148	251	201	130	10606
種類数	7	6	5	2	3	1	1	3	2	2	2	4	6	7	7	6	7	8	7	7	4	4	3	2	17

礼文町の消波ブロックの海岸と羅臼川河口から羅臼漁港の南側の防波堤までの地区で調査を行った。礼文町の消波ブロックではカモメ類とヒメウ・ウミウが休んでおり、道の駅の前浜沖ではシノリガモ・カワアイサ・ウミアイサなどの潜水採餌カモが観察された。そして、羅臼川は流量も多くカモメ類が水を飲んだり水浴するには適しており、オオセグロカモメを中心に多くのカモメ類が集まっていた。渡りの移動時期の11月19日にはウミネコ1250羽が確認され、ユリカモメは10月20日に802羽が確認された。

⑥ 羅臼漁港地区



図-8) 羅臼漁港地区調査地点

表-7) 羅臼漁港地区で観察された海鳥

鳥種\月日	4/9	4/28	5/13	5/28	6/18	6/21	7/17	7/28	8/18	8/29	9/9	9/26	10/16	10/28	11/19	11/25	12/17	12/30	1/11	1/29	2/18	2/24	3/5	3/6	合計	
1 ハムsp.													10												10	
2 ミズナギドリsp.			1000				4																			1004
3 ウミウ	2			2			11	2	35	45	3	2														102
4 ヒメウ	6	13	16	18	12		22		3	2					16	2	4	2	16	33	12	51				228
5 キンクロハジロ																	6				10					16
6 スズガモ																						3				3
7 シノリガモ																2	113	4	10	18	8	4	4			163
8 ウミアイサ																							6			6
9 ユリカモメ														630												630
10 オオセグロカモメ	246	474	398	387	398	598	298	414	386	120	149	187	42	517	301	1000	28	23	45	120	131	253	52	208		6775
11 シロカモメ															7				4							11
12 ウミネコ	1		1	2					7	84	42	3		91												231
13 ワシカモメ	1														1				1	1			1			5
14 ウトウ					26		6						1													33
15 アオサギ									4																	4
合計	256	487	1415	409	436	598	341	416	435	251	194	192	53	1238	309	1018	143	38	62	154	182	279	107	208		9221
種類数	5	2	4	4	3	1	5	2	5	4	3	3	3	3	3	3	3	5	5	3	4	6	3	1		15

羅臼漁港内と羅臼漁港屋上の見晴らしの良い場所で観察を行った。漁港屋上は1月以降除雪されておらず漁港から沖側の観察ができなかった。羅臼漁港防波堤でオオセグロカモメの繁殖状況が観察された。冬期間には、シノリガモ・スズガモ・キンクロハジロなどの潜水ガモが確認された。11月25日には約1000羽のオオセグロカモメの越冬個体が確認された。

⑦ロウソク岩地区



図-8) ロウソク岩地区調査地点

表-8) ロウソク岩地区で観察された海鳥

鳥種\月日	4/9	4/28	5/13	5/28	6/18	6/21	7/17	7/28	8/18	8/29	9/9	9/26	10/16	10/28	11/19	11/25	12/17	12/30	1/11	1/29	2/18	2/24	3/5	3/6	合計
1 ハムsp.			4										10												14
2 ミズナギドリsp.			10000																						10000
3 ウミウ		1								1															2
4 ヒメウ	2	1								1					4		3	26	1	6			4		48
5 シノリガモ	2									1						10	4		4	4	24	46	43		138
6 ウミアイサ	6		4										2					4							16
7 カワアイサ																	6	4							10
8 ユリカモメ		223													300										523
9 オオセグロカモメ	12	18	27	27	23	9	4	3		6	3	2		20	33	16	14	14	40	7	8	5	1		292
10 ウミネコ							8	6	9	9	4						88								124
11 ハシボソミズナギドリ																	10								10
12 ウトウ				57		4				1															62
13 ヒシクイ										8															8
合計	10	237	10026	27	84	23	13	12	9	10	26	7	12	2	324	131	23	60	23	50	31	54	52	1	11247
種類数	3	4	4	1	2	1	2	2	2	2	6	2	2	1	3	3	3	5	4	3	2	2	3	1	13

5月13日に1万羽を超えるミズナギドリ類が沖合に飛来した。ハシボソミズナギドリであると考えられる。ユリカモメは4月28日に223羽、11月19日に300羽と春秋の渡りの時期に飛来を確認した。9月9日にはヒシクイ8羽が岬方面に飛去していくのを確認した。この調査では初めての確認事例となった。

⑧サシルイ地区



図-9) サシルイ地区調査地点

表-9) サシルイ地区で観察された海鳥

鳥種\月日	4/9	4/28	5/13	5/28	6/18	6/21	7/17	7/28	8/18	8/29	9/9	9/26	10/16	10/28	11/19	11/25	12/17	12/30	1/11	1/29	2/18	2/24	3/5	3/6	合計	
1 ウミウ	4																								4	
2 アカエリカイツブリ																		6								6
3 ヒメウ													1					4		4						9
4 ウミネコ									4	9	6		4													23
5 カワアイサ																			4	38						42
6 ウトウ					66																					66
7 カモメ																				68						68
8 オオセグロカモメ			4	27		3	1	4	2		8		5		6	4		4	4	40	2	2	4			120
9 シノリガモ	20																4	4	4	4			75	91	13	219
10 ユリカモメ		446																								446
11 ミズナギドリsp.			10000																							10000
合計	24	446	10004	27	66	3	1	4	6	9	14	0	9	1	6	8	4	18	12	154	2	77	95	13		11003
種類数	2	1	2	1	1	1	1	1	2	1	2	0	2	1	1	2	1	4	3	5	1	2	2	1		11

サシルイ中央バス停付近にある建築現場事務所周辺で観察した。湾内という地形のためか海鳥の種類・数ともに少ない地点であるが、5月13日にハシボソミズナギドリと思われるミズナギドリ類が約1万羽飛来した。また6月18日にウトウ66羽、1月29日にカモメが68羽を確認した。

⑨天狗岩地区

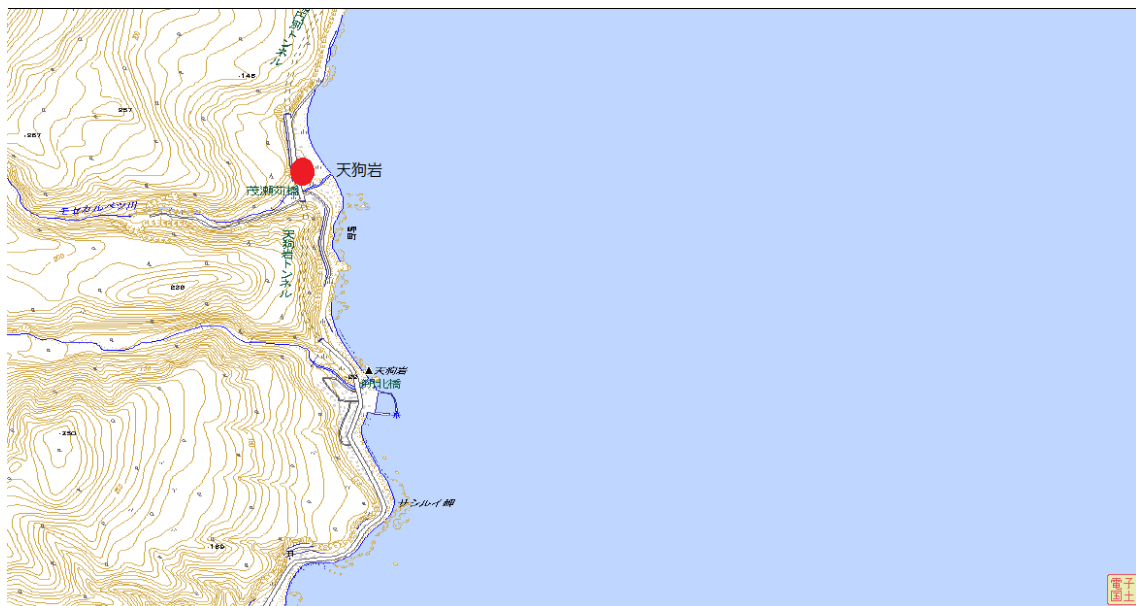


図-10) 天狗岩地区調査地点

表-10) 天狗岩地区で観察された海鳥

鳥種\月日	4/9	4/28	5/13	5/28	6/18	6/21	7/17	7/28	8/18	8/29	9/9	9/26	10/16	10/28	11/19	11/25	12/17	12/30	1/11	1/29	2/18	2/24	3/5	3/6	合計	
1 ハシボトウミガラス																		1							1	
2 アカエリカイツブリ																			3							3
3 ウミウ								4																		4
4 ヒメウ																	1	3	1							5
5 カワアイサ																		4				1				5
6 セグロカモメ													2					2		1						5
7 マガモ																					6	6	2			14
8 ミツユビカモメ											1	6	12													19
9 ウミアイサ		28																2			3					33
10 シノリガモ	24	69												15	2	14		6			2	4	4	8		148
11 カモメ		1																85	4	89						183
12 ウトウ					353		4																			357
13 ウミネコ					16	5	14	67	2		24	64	31	150			2									375
14 ユリカモメ	80	350												100	18											548
15 オオセグロカモメ	10		16	24	16	4	12	34	2	88	8	42	33	100	4	4	1	110	4	35	59	8	57	9		680
16 ミズナギドリsp.			10000																							10000
合計	114	448	10016	24	385	9	30	105	4	88	32	107	70	383	24	20	2	216	9	125	70	19	63	17		12380
種類数	3	4	2	1	3	2	3	3	2	1	2	3	3	7	3	3	2	9	3	3	4	4	3	2		16

天狗岩の駐車帯から沖合の観察を行ったが、オッカバケ川河口に集まるカモメ類やカモ類も記録した。オッカバケ川河口には、オオセグロカモメを中心としたカモメ類が飲水と水浴のために集まっていた。また天狗岩では休息するカモメ類が観察された。5月13日にハシボソミズナギドリと思われるミズナギドリ類が約1万羽飛来した。6月18日には沖合に飛来しているウトウ353羽を確認した。マガモを2月18日に6羽、2月24日に6羽、3月5日に2羽と調査開始以来初めて確認した。釣り人が河口付近に入るとカモメ類はほとんどいなくなることもあった。

⑩知円別地点



図-11) 知円別地区調査地点

表-11) 知円別地区で観察された海鳥

鳥種\月日	4/9	4/28	5/13	5/28	6/18	6/21	7/17	7/28	8/18	8/29	9/9	9/26	10/16	10/28	11/19	11/25	12/17	12/30	1/11	1/29	2/18	2/24	3/5	3/6	合計	
1 ミズナギドリsp.			10000																						10000	
2 ウミウ		2							1		1															4
3 ヒメウ	4	6	2		2								1	2	1			2			1	2				23
4 ホオジロガモ																				2						2
5 スズガモ																					1					1
6 シノリガモ	45	3	4											14	14	49	24	26	30	18	37	36	8		308	
7 ウミアイサ																			4							4
8 カワアイサ																		8		10	19	4	2			43
9 ユリカモメ		1													5											6
10 セグロカモメ														1												1
11 オオセグロカモメ	97	182	69	65	74	66	79	172	125	132	62	4	2	101	462	116	288	74	140	274	328	289	130	75	3406	
12 シロカモメ																		2								2
13 ウミネコ		2			2	7			4	57	18			201	8											299
14 ワシカモメ													1										1			2
15 カモメsp.																50										50
16 ウトウ					2																					2
17 アオサギ												1														1
合計	146	196	10075	65	80	73	79	172	130	189	81	5	3	304	491	181	337	110	170	316	367	332	169	83	14154	
種類数	3	6	4	1	4	2	1	1	3	2	3	2	2	4	5	4	2	5	3	4	5	4	4	2	17	

知円別漁港トンネル北出口と知円別漁港で観察した。知円別漁港の外側に離岸堤がありオオセグロカモメの営巣地となっている。5月13日にハシボソミズナギドリと思われるミズナギドリ類が約1万羽飛来した。10月28日にはウミネコ201羽の渡りの途中だと思われる群れが飛来していた。シノリガモは4月9日から5/13までと11/19から3月6日までの越冬期に確認された。

⑪ 岩見橋地区



図-12) 岩見橋地区調査地点

表-12) 岩見橋地区で観察された海鳥

鳥種\月日	4/9	4/28	5/13	5/28	6/18	6/21	7/17	7/28	8/18	8/29	9/9	9/26	10/16	10/28	11/19	11/25	12/17	12/30	1/11	1/29	2/18	2/24	3/5	3/6	合計	
1 ウミウ					2			2	1		1	4													10	
2 シノリガモ	8															6		2					8		24	
3 ウミアイサ																			2						2	
4 オオセグロカモメ			2							1	4	1	10	4	1		4	6							2	35
5 ウミネコ							1		6	3	8					120									138	
6 ウトウ								1																	1	
合計	8	0	2	0	2	0	1	3	7	4	13	5	10	4	1	126	0	6	6	2	0	0	8	2	210	
種類数	1	0	1	0	1	0	1	2	2	2	3	2	1	1	1	2	0	2	1	1	0	0	1	1	6	

石見橋の左岸で観察を行った。種数・個体数ともに少ない地点であった。11月25日にはウミネコ120羽の渡りの途中だと思われる群れが飛来していた。

⑫ルサ地区



図-13) ルサ地区調査地点

表-13) ルサ地区で観察された海鳥

鳥種\月日	4/9	4/28	5/13	5/28	6/18	6/21	7/17	7/28	8/18	8/29	9/9	9/26	10/16	10/28	11/19	11/25	12/17	12/30	1/11	1/29	2/18	2/24	3/5	3/6	合計
1 シロエリオオハム																1									1
2 アカエリカイツブリ																		1	1						2
3 ミズナギドリsp.			10000				2																		10002
4 ウミウ					2		2			2		6	2												14
5 シノリガモ	2	2													2	6		2	2			18	4	14	52
6 ウミアイサ	1	16	12												2										31
7 カワアイサ																		3	4						7
8 トウゾクカモメsp.							1																		1
9 ユリカモメ			8																						8
10 セグロカモメ												1													1
11 オオセグロカモメ		2	54	24			23		2		2	4			2	4	2		4						123
12 ウミネコ							12	4	3	3															22
13 ウトウ							2	8																	10
14 アイサsp.																	2								2
合計	3	20	10074	24	2	0	42	12	5	5	2	10	3	0	4	13	4	6	11	0	0	18	4	14	10276
種類数	2	3	4	1	1	0	6	2	2	2	1	2	2	0	2	4	2	3	4	0	0	1	1	1	14

ルサフィールドハウス前で観察を行った。5月13日にハシボソミズナギドリと思われるミズナギドリ類が約1万羽飛来した。

11月25日にシロエリオオハム1羽、12月30日と1月11日にアカエリカイツブリが各1羽確認された。また、沖合に生息し陸上からの確認が難しいトウゾクカモメ類1羽が7月17日に確認された。

⑬昆布浜地区

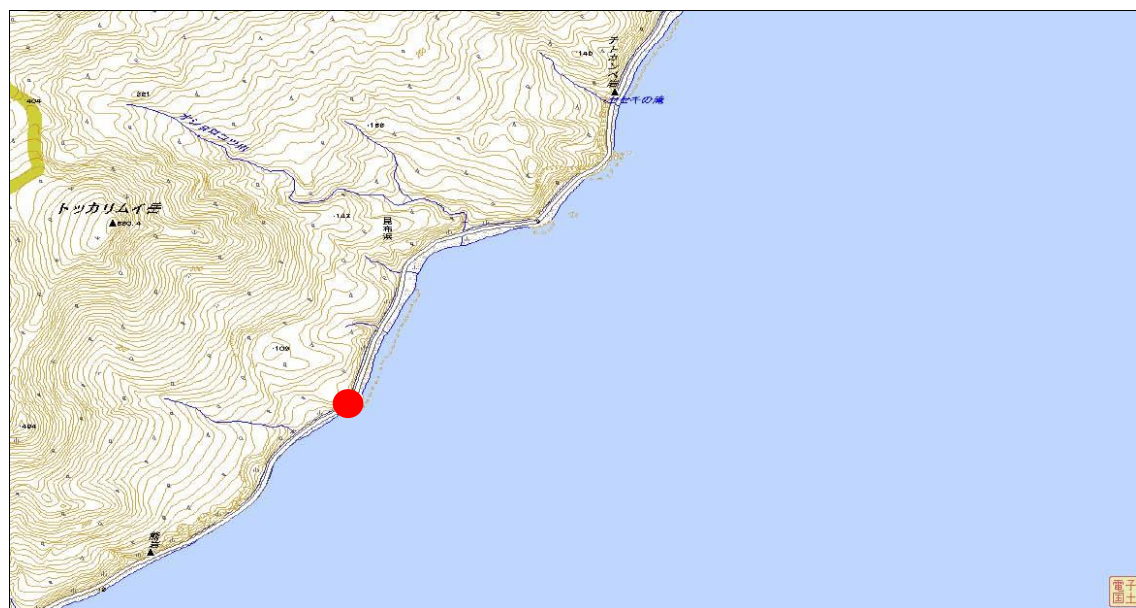


図-14) 昆布浜地区調査地点

表-14) 昆布浜地区で観察された海鳥

鳥種\月日	4/9	4/28	5/13	5/28	6/18	6/21	7/17	7/28	8/18	8/29	9/9	9/26	10/16	10/28	11/19	11/25	12/17	12/30	1/11	1/29	2/18	2/24	3/5	3/6	合計	
1 カワアイサ		2															6								8	
2 ウミネコ							2	4		5	1														12	
3 ウミウ				10	2		1																		13	
4 ヒメウ		1	4	4																		1	2	1	13	
5 ウトウ					6		3	46																	55	
6 オオセグロカモメ			6			1	2		5	6	2	1	1	4	2			10	6					32	2	80
7 シノリガモ															6	6	2	2	4				1	34	58	113
8 カモメsp.																400									400	
9 ミズナギドリsp.			10000				2	1																	10003	
合計	0	3	10010	14	8	1	10	51	5	11	3	1	1	4	8	406	8	12	10	0	0	2	68	61	10697	
種類数	0	2	3	2	2	1	5	3	1	2	2	1	1	1	2	2	2	2	2	0	0	2	3	3	9	

昆布浜の道路沿いで調査を行った。5月13日にハシボソミズナギドリと思われるミズナギドリ類が約1万羽飛来した。また、11月25日には、種を識別できないほど沖合にカモメ類約400羽が飛来し採餌していた。

⑭セセキ地区



図-15) セセキ岩調査地点

表-15) セセキ地区で観察された海鳥

鳥種\月日	4/9	4/28	5/13	5/28	6/18	6/21	7/17	7/28	8/18	8/29	9/9	9/26	10/16	10/28	11/19	11/25	12/17	12/30	1/11	1/29	2/18	2/24	3/5	3/6	合計
1 ミミカイツブリ																2									2
2 アカエリカイツブリ																		3	2						5
3 ミズナギドリsp.			10000				1	1																	10002
4 ウミウ	2				2		1	1	1	5				1											13
5 ヒメウ	3	1											1			1		5			2	1	6		20
6 シノリガモ	6	6	26												5	36	16	11	4		36	60	62	100	368
7 ウミアイサ		2																							6
8 ユリカモメ														5											5
9 オオセグロカモメ			24	2	2	16	31	12	5	3	1	35	4	1	1	15	10	4	6					15	187
10 ウミネコ								6		34	4	4		2		65									115
11 カモメsp.			250												60	50									360
12 ウトウ					21		1	4																	26
合計	11	9	10300	2	25	16	34	24	6	42	5	39	5	69	6	169	30	23	12	0	38	61	83	100	11109
種類数	3	3	4	1	3	1	4	5	2	3	2	2	2	5	2	6	3	4	3	0	2	2	3	1	12

セセキ温泉駐車場と相泊温泉駐車場の2カ所から観察した。5月13日にハシボソミズナギドリと思われるミズナギドリ類が約1万羽飛来し、カモメ類も約250羽を確認した。3月6日には流氷の開いた開面にシノリガモ約100羽が集まっていた。

⑮相泊地区



図-17) 相泊地区調査地点

表-16) 相泊地区で観察された海鳥

鳥種\月日	4/9	4/28	5/13	5/28	6/18	6/21	7/17	7/28	8/18	8/29	9/9	9/26	10/16	10/28	11/19	11/25	12/17	12/30	1/11	1/29	2/18	2/24	3/5	3/6	合計	
1 ハムsp.		2																							2	
2 ハシボソミズナギドリ			10000																							10000
3 ウミウ			1		2		2	2	4	6	10	1	2		3											33
4 ヒメウ	1										2		1		3	2	2							2		13
5 シノリガモ	10	2	5						5	36	16	14	2	1	20	2	8	8						6		135
6 ユリカモメ			24																							24
7 オオセグロカモメ		1	15	4		2	44	29	7	35	40	33	10		1		2	74	15					32		344
8 カモメ			26																							26
9 ウミネコ								17	6	64	64	621	154	2												926
10 カモメsp.														80		200										280
11 ウトウ					3	1	2	2																		8
12 アオサギ												1														1
合計	11	5	10071	4	5	3	48	50	13	108	148	681	180	86	2	226	6	84	23	0	0	0	0	40	0	11794
種類数	2	3	6	1	2	2	3	4	2	4	5	5	5	4	2	4	3	3	2	0	0	0	0	3	0	12

相泊漁港及びアイドマリ川河口で観察を行った。5月13日にハシボソミズナギドリと思われるミズナギドリ類が約1万羽飛来した。9月26日にはウミネコ621羽を確認した。シノリガモはアイドマリ川の河口に見られることが多く、オオセグロカモメとウミネコは相泊漁港の堤防の上で多く確認された。1月より港内で重機による工事が行われ港の中に海鳥が入ることが少なくなった。

2) 各鳥種についての各論

今回は、希少鳥類を中心に注目鳥を選んで各論を述べる

表-17) ミズナギドリ類の調査日別個体数の推移 (2025年4月～2026年3月)

月日	4/9	4/28	5/13	5/28	6/18	6/21	7/17	7/28	8/18	8/29	9/9	9/26	10/16	10/28	11/19	11/25	12/17	12/30	1/11	1/29	2/18	2/24	3/5	3/6	合計
ミズナギドリ類	0	0	81000	0	0	0	9	102	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	81111

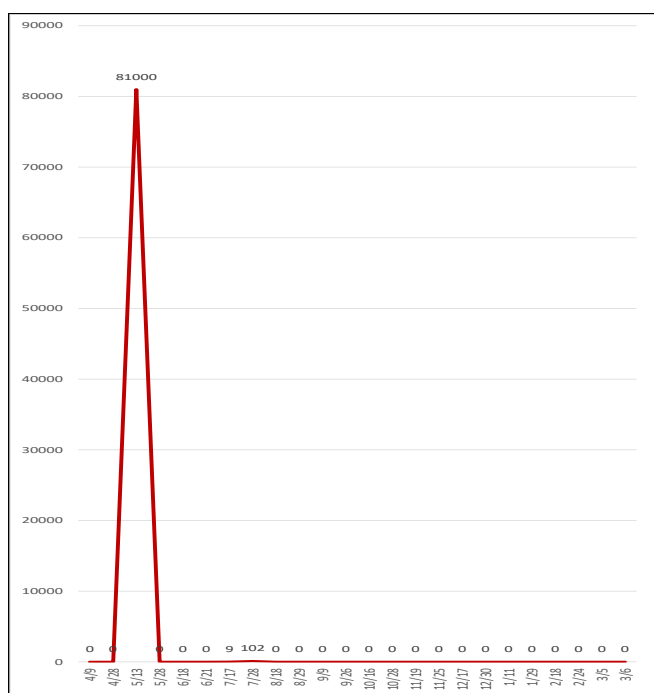


図-17) ミズナギドリ類の調査日別個体数の推移グラフ (2025年4月～2026年3月)

陸上からの観察では、ハシボソミズナギドリとハイイロミズナギドリそしてフルマカモメも識別が難しいのでミズナギドリ類とした。

ハシボソミズナギドリとハイイロミズナギドリは特に識別が難しく両種ともオーストラリアとニュージーランドの南極海に面した島嶼部で繁殖する。ハシボソミズナギドリはオキアミなどの動物プランクトンを主に捕食し、ハイイロミズナギドリは魚食性が強いいため知床半島周辺に飛来する時期が若干違うと考えられる。

フルマカモメは、北千島以北やサハリン北部で繁殖する。カモメと名付けられているがミズナギドリの仲間である。ミズナギドリの仲間でありながら潜水はできなく主に水面で採餌する。浮遊する魚や他の海鳥のこぼした餌を食べることもありハシボソミズナギドリの群れに追従して出現することもある。

5月13日に調査区の広い範囲で観察され全体では8万1千羽となったが、沖合の個体は遠方で見えないため、それ以上の個体数が飛来していたと考えられる。

・ウミウ

表-18) ウミウの調査日別個体数の推移 (2025年4月～2026年3月)

月日	4/9	4/28	5/13	5/28	6/18	6/21	7/17	7/28	8/18	8/29	9/9	9/26	10/16	10/28	11/19	11/25	12/17	12/30	1/11	1/29	2/18	2/24	3/5	3/6	合計
ウミウ	9	3	2	12	11	0	18	15	45	70	17	44	7	18	0	4	0	0	0	1	0	0	0	0	276

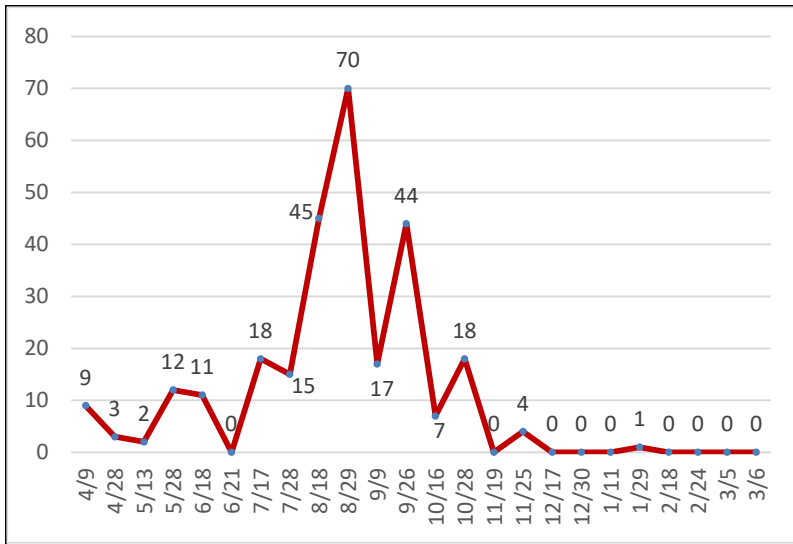


図-18) ウミウの調査日別個体数の推移グラフ (2025年4月～2026年3月)

知床半島で繁殖しているが近年営巣数が減少している。繁殖期後半から個体数が増え繁殖期が終了した8月29日に70羽を確認した。冬期間は1月29日に1羽観察されただけだった。

・ヒメウ

表-19) ヒメウの調査日別個体数の推移 (2025年4月～2026年3月)

月日	4/9	4/28	5/13	5/28	6/18	6/21	7/17	7/28	8/18	8/29	9/9	9/26	10/16	10/28	11/19	11/25	12/17	12/30	1/11	1/29	2/18	2/24	3/5	3/6	合計
ヒメウ	25	27	25	23	16	1	23	0	3	2	3	0	4	12	194	311	58	83	29	26	41	28	67	5	1006

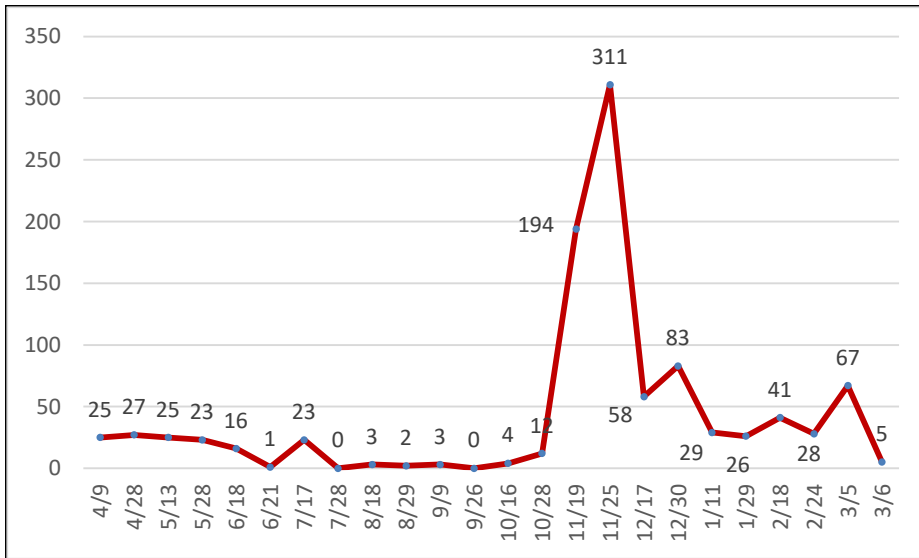


図-19) ヒメウの調査日別個体数の推移グラフ (2025年4月～2026年3月)

知床半島では繁殖はしておらず、近隣では千島列島で繁殖している。11月25日に311羽が確認されている。渡り途中の個体が多く飛来したものと考えられる。繁殖期にも少数が観察されるが繁殖に参加しない個体が飛来しているものと考えられる。松法漁港の堤防の岸壁にへばりつくように止まっている個体も多く見られた。

国内では天売島で少数繁殖するのみであることから、環境省レッドリストにおいて絶滅危惧ⅠB類に指定されているが、羅臼海域では比較的多くの個体が観察され、この海域はヒメウにとって重要な生息地であると考えられる。

・シノリガモ

表-19) シノリガモの調査日別個体数の推移 (2025年4月～2026年3月)

月日	4/9	4/28	5/13	5/28	6/18	6/21	7/17	7/28	8/18	8/29	9/9	9/26	10/16	10/28	11/19	11/25	12/17	12/30	1/11	1/29	2/18	2/24	3/5	3/6	合計
シノリガモ	152	376	41	1	0	0	0	0	0	12	36	16	16	42	72	215	219	131	106	94	341	346	332	299	2847

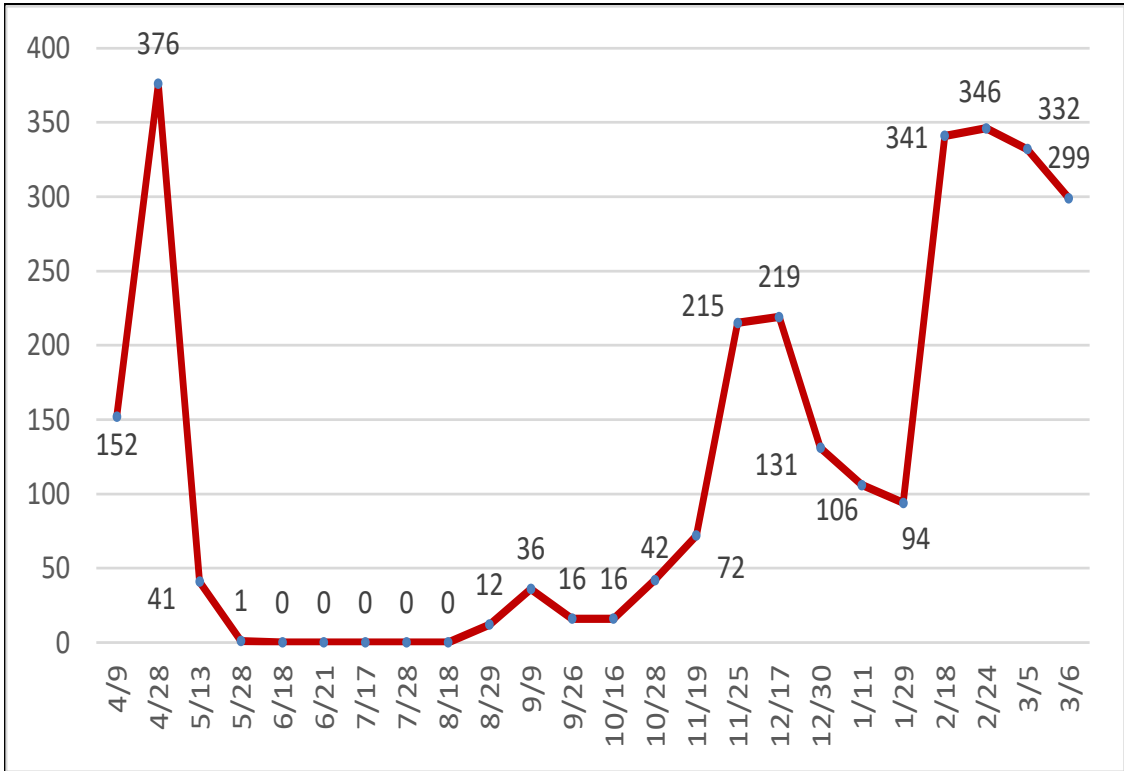


図-19) シノリガモの調査日別個体数の推移グラフ (2025年4月～2026年3月)

東北以北で繁殖する個体は環境省レッドリストで絶滅のおそれのある地域個体群に指定されている。繁殖は森林の渓谷で行い繁殖期以外は海域で生息するという特異な生態を持っている。羅臼海域では繁殖期を除く秋から春まで観察されている。特に、流水期の2月18日から3月6日の期間で300羽前後が確認された。また、繁殖期直前の4月28日には376羽と最高羽数を記録した。

知床半島でも少数が繁殖していると考えられることから、知床の森と川と海をつなぐ生き物として今後の知床の環境保護のシンボルともなりうる種である。

・ウミアイサ

表-20) ウミアイサの調査日別個体数の推移 (2025年4月～2026年3月)

月日	4/9	4/28	5/13	5/28	6/18	6/21	7/17	7/28	8/18	8/29	9/9	9/26	10/16	10/28	11/19	11/25	12/17	12/30	1/11	1/29	2/18	2/24	3/5	3/6	合計
ウミアイサ	43	78	61	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	56	0	2	4	14	4	27	12	8	2	0	311

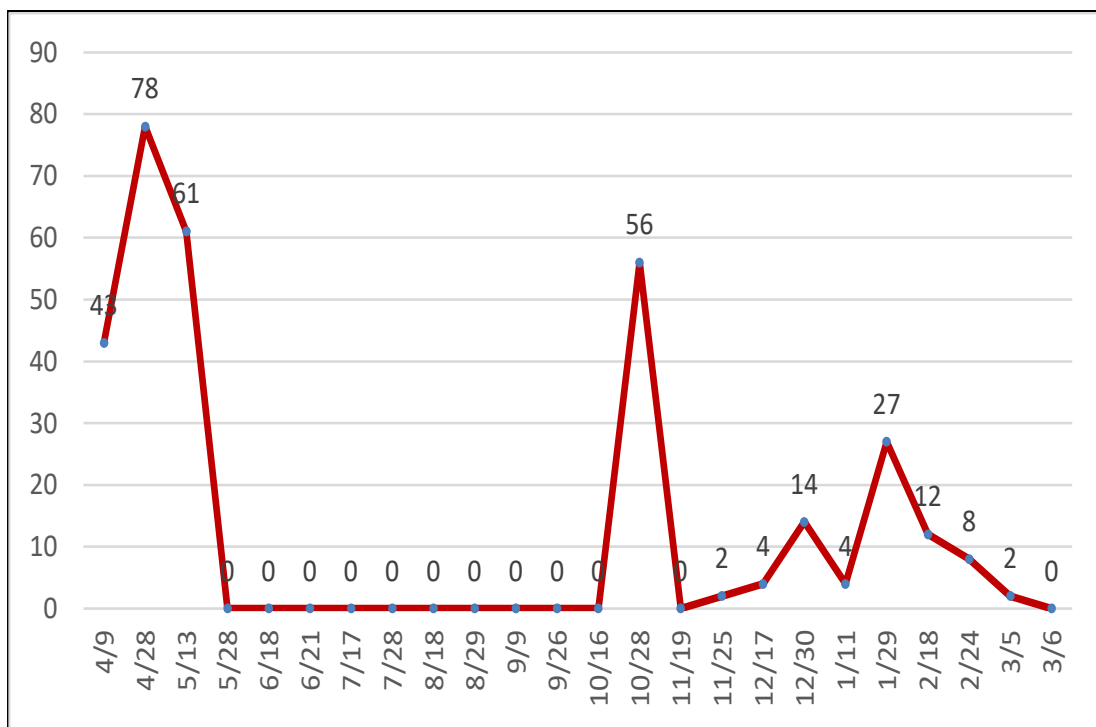


図-20) ウミアイサの調査日別個体数の推移グラフ (2025年4月～2026年3月)

北海道以北のサハリンから北で繁殖する。亜寒帯から北極圏近くまで繁殖し分布は広い。繁殖期には湖沼や河川に生息する。羅臼海域では越冬個体が観察された春と秋の渡りの時期に通過する個体が多く観察された。

・カワアイサ

表-21) カワアイサの調査日別個体数の推移 (2025年4月～2026年3月)

月日	4/9	4/28	5/13	5/28	6/18	6/21	7/17	7/28	8/18	8/29	9/9	9/26	10/16	10/28	11/19	11/25	12/17	12/30	1/11	1/29	2/18	2/24	3/5	3/6	合計
カワアイサ	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	21	15	48	23	5	2	2	124

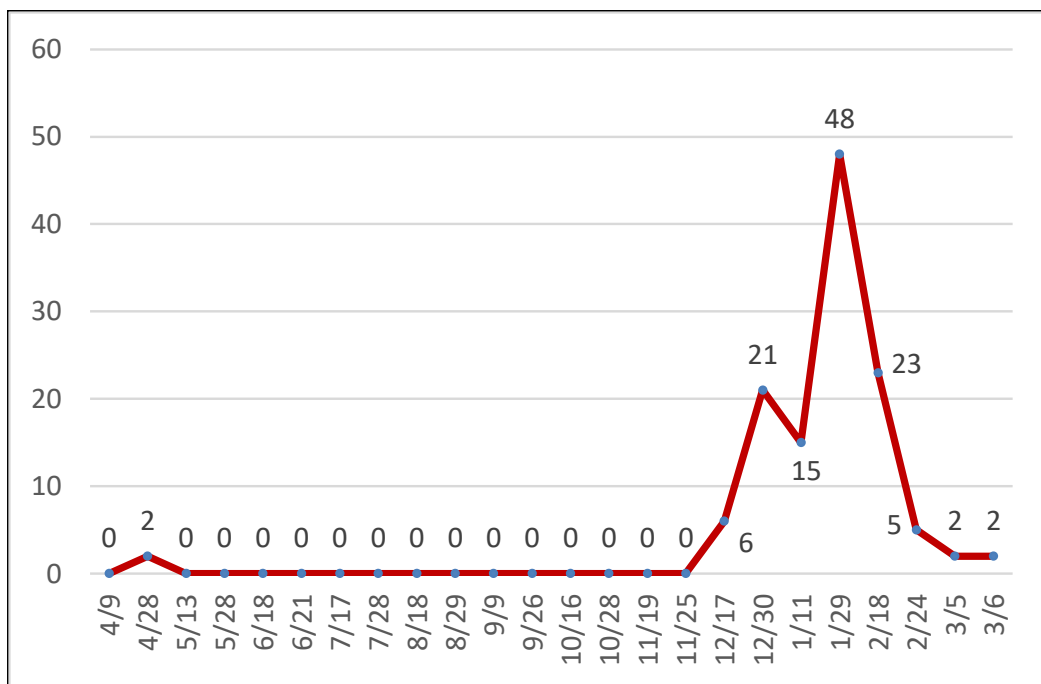


図-21) カワアイサの調査日別個体数の推移グラフ (2025年4月～2026年3月)

この種は、知床半島で繁殖する。最高羽数は11月29日の48羽であった。ウミアイサと同じく魚食性のカモである。カワアイサという名前があるが川の河口付近の海岸でも多く見られる。森林の樹洞や土の中の穴で営巣することからシノリガモと同じく森川海を繋ぐ種である。

・ユリカモメ

表-22) ユリカモメの調査日別個体数の推移 (2025年4月～2026年3月)

月日	4/9	4/28	5/13	5/28	6/18	6/21	7/17	7/28	8/18	8/29	9/9	9/26	10/16	10/28	11/19	11/25	12/17	12/30	1/11	1/29	2/18	2/24	3/5	3/6	合計
ユリカモメ	124	1238	138	0	0	0	0	0	0	0	0	1	45	1061	1575	1501	70	1	0	0	0	0	0	0	5754

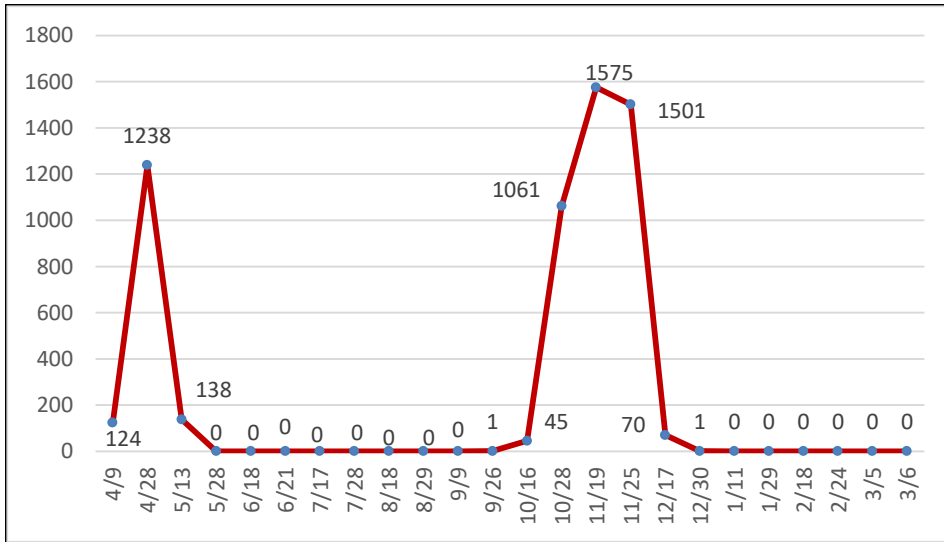


図-22) ユリカモメの調査日別個体数の推移グラフ (2025年4月～2026年3月)

春と秋の渡りの時期に多く観察された。秋の越冬地に向かう個体が11月19日に1575羽確認され、春には4月28日に繁殖地に向かう1238羽が確認された。春に通過する個体は、顔が黒くなった繁殖羽の個体が多かった。

・オオセグロカモメ

表-23) オオセグロカモメの調査日別個体数の推移 (2025年4月～2026年3月)

月日	4/9	4/28	5/13	5/28	6/18	6/21	7/17	7/28	8/18	8/29	9/9	9/26	10/16	10/28	11/19	11/25	12/17	12/30	1/11	1/29	2/18	2/24	3/5	3/6	合計
オオセグロカモメ	515	947	996	959	904	912	761	1390	722	651	548	560	356	1419	1679	2108	1117	540	797	965	664	799	551	379	21239

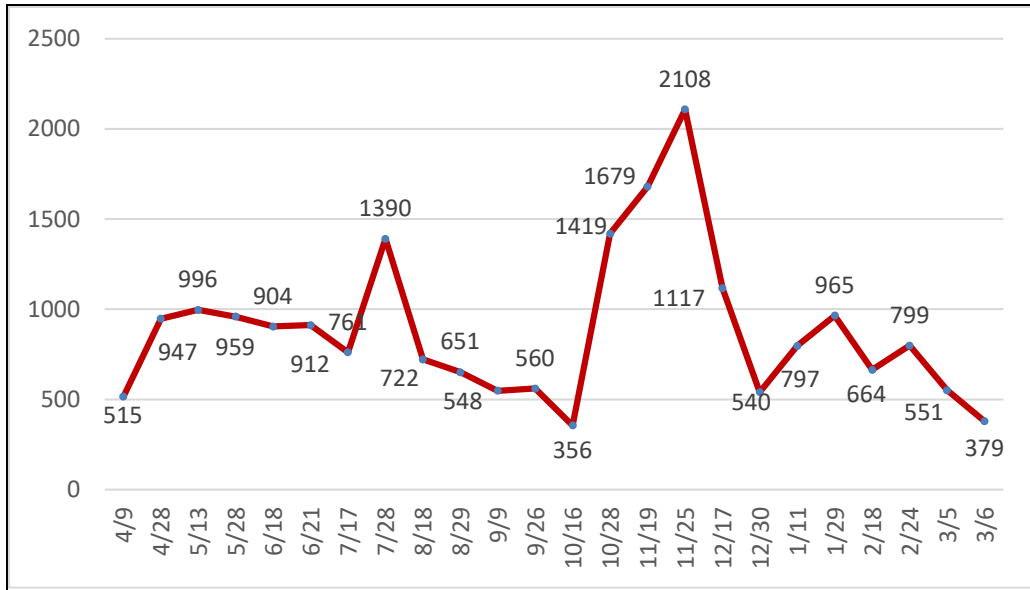


図-23) オオセグロカモメ調査日別個体数の推移グラフ (2025年4月～2026年3月)

この種は知床半島で繁殖し、年間を通して観察することができる。水産廃棄物や漁船からこぼれた魚を食べることも多いため、漁港周辺に生息することが多い。繁殖には建物の屋根や防波堤などの人工物、岩礁や崖の岩棚など多くの環境を利用する。

北海道の各地で繁殖数を減らしていることから、2017年より北海道指定の絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。それは知床半島で営巣数が減少していることも理由である。

個体数は、11月25日に2108羽が確認された、これは渡り途中の個体も多く飛来してきているものだと考えられる。

・カモメ

表-24) カモメの調査日別個体数の推移 (2025年4月～2026年3月)

月日	4/9	4/28	5/13	5/28	6/18	6/21	7/17	7/28	8/18	8/29	9/9	9/26	10/16	10/28	11/19	11/25	12/17	12/30	1/11	1/29	2/18	2/24	3/5	3/6	合計
カモメ	0	1	26	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	5	6	0	0	108	54	157	0	40	0	0	401

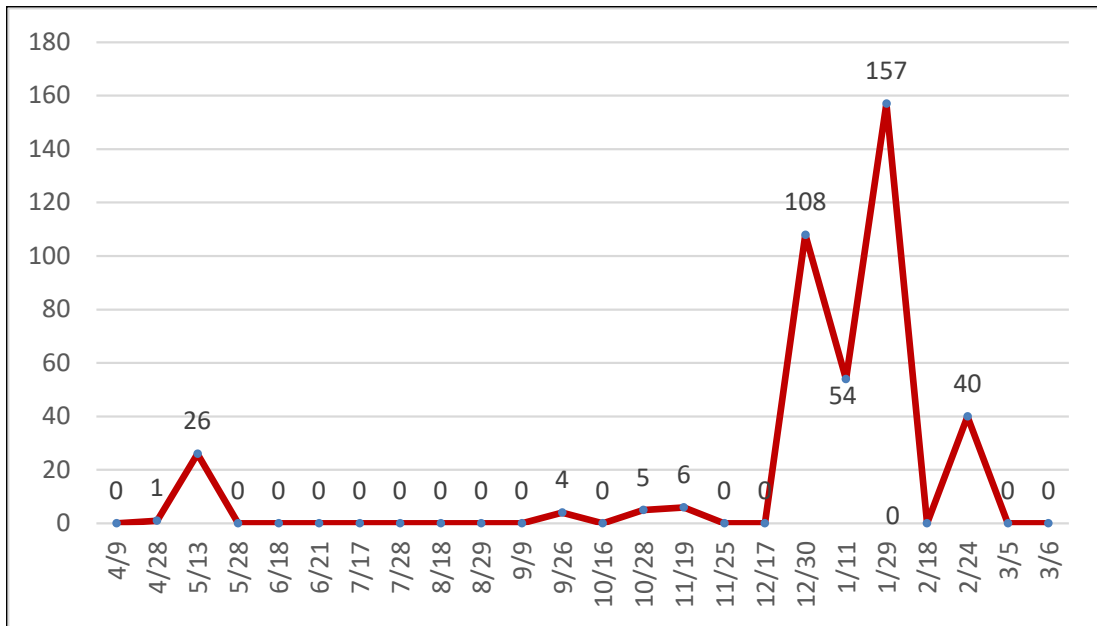


図-24) カモメの調査日別個体数の推移グラフ (2025年4月～2026年3月)

冬期の12月30日に108羽、1月29日に157羽と個体数が増加した。カムチャツカ以北で繁殖し日本には冬鳥として飛来する。海面でプランクトンのようなものを採餌している行動を観察することが多い。

・ウミネコ

表-25) ウミネコの調査日別個体数の推移 (2025年4月～2026年3月)

月日	4/9	4/28	5/13	5/28	6/18	6/21	7/17	7/28	8/18	8/29	9/9	9/26	10/16	10/28	11/19	11/25	12/17	12/30	1/11	1/29	2/18	2/24	3/5	3/6	合計	
ウミネコ	6	4	4	6	33	59	102	222	127	503	476	949	411	1685	162	279	2	1	0	0	0	0	0	0	0	5031

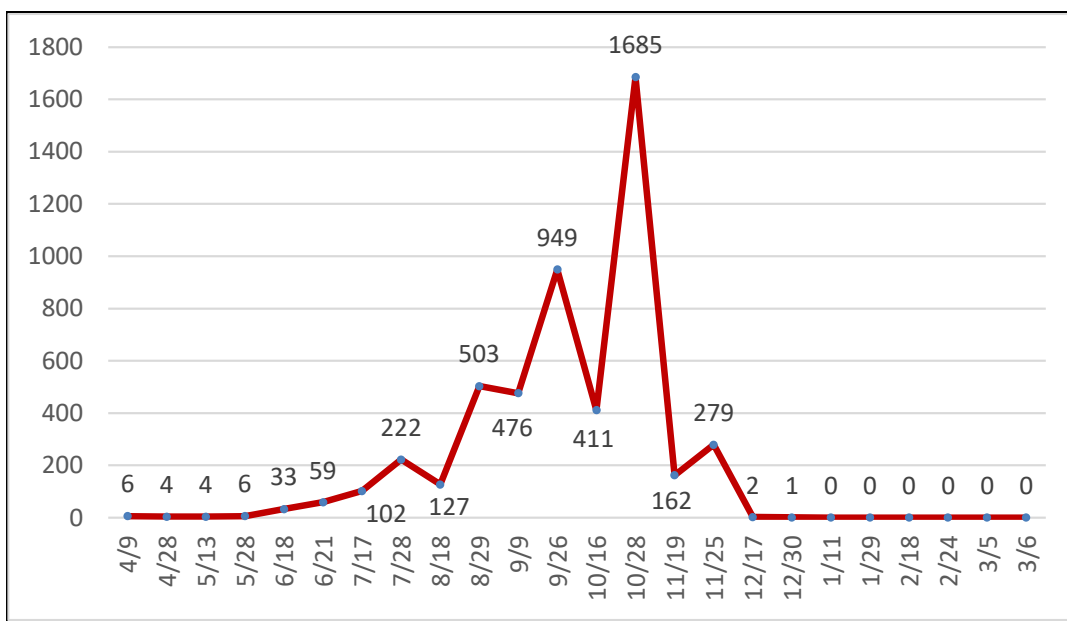


図-25) ウミネコの調査日別個体数の推移グラフ (2025年4月～2026年3月)

北海道の各地で繁殖数を減らしていることから、2017年より北海道指定の絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。それは知床半島で営巣数が減少していることも理由である。繁殖期が終了した時期から個体数が増え始め10月28日に1685羽を確認した。冬期間は、ほぼ確認されなかった。

・ウトウ

表-26) ウトウの調査日別個体数の推移 (2025年4月～2026年3月)

月日	4/9	4/28	5/13	5/28	6/18	6/21	7/17	7/28	8/18	8/29	9/9	9/26	10/16	10/28	11/19	11/25	12/17	12/30	1/11	1/29	2/18	2/24	3/5	3/6	合計
ウトウ	20	0	2	6	536	3	115	84	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	768

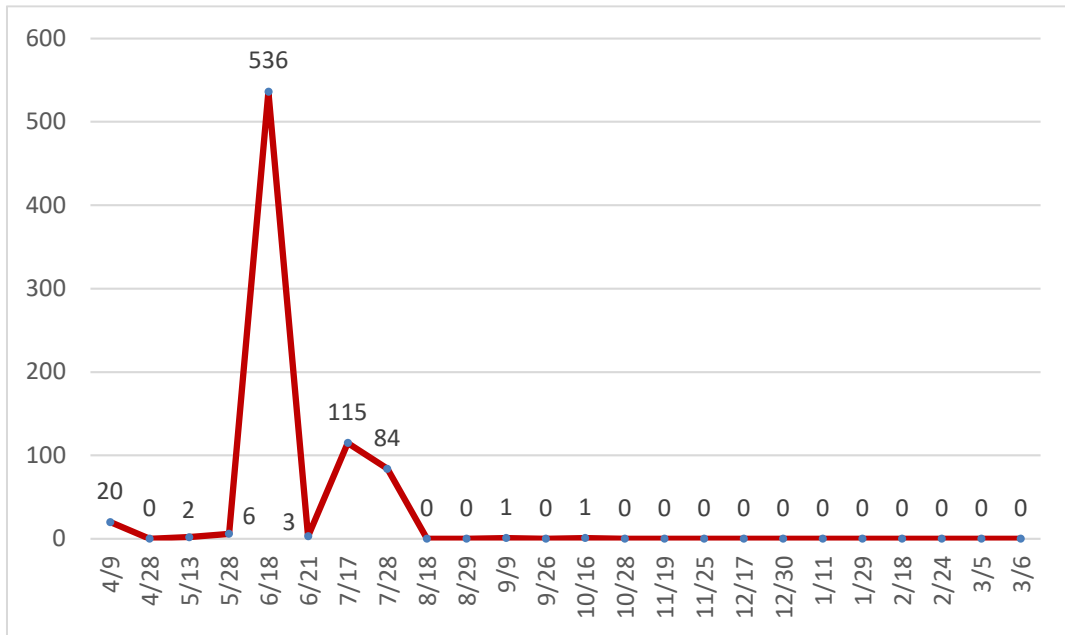


図-26) ウトウの調査日別個体数の推移 (2025年4月～2026年3月)

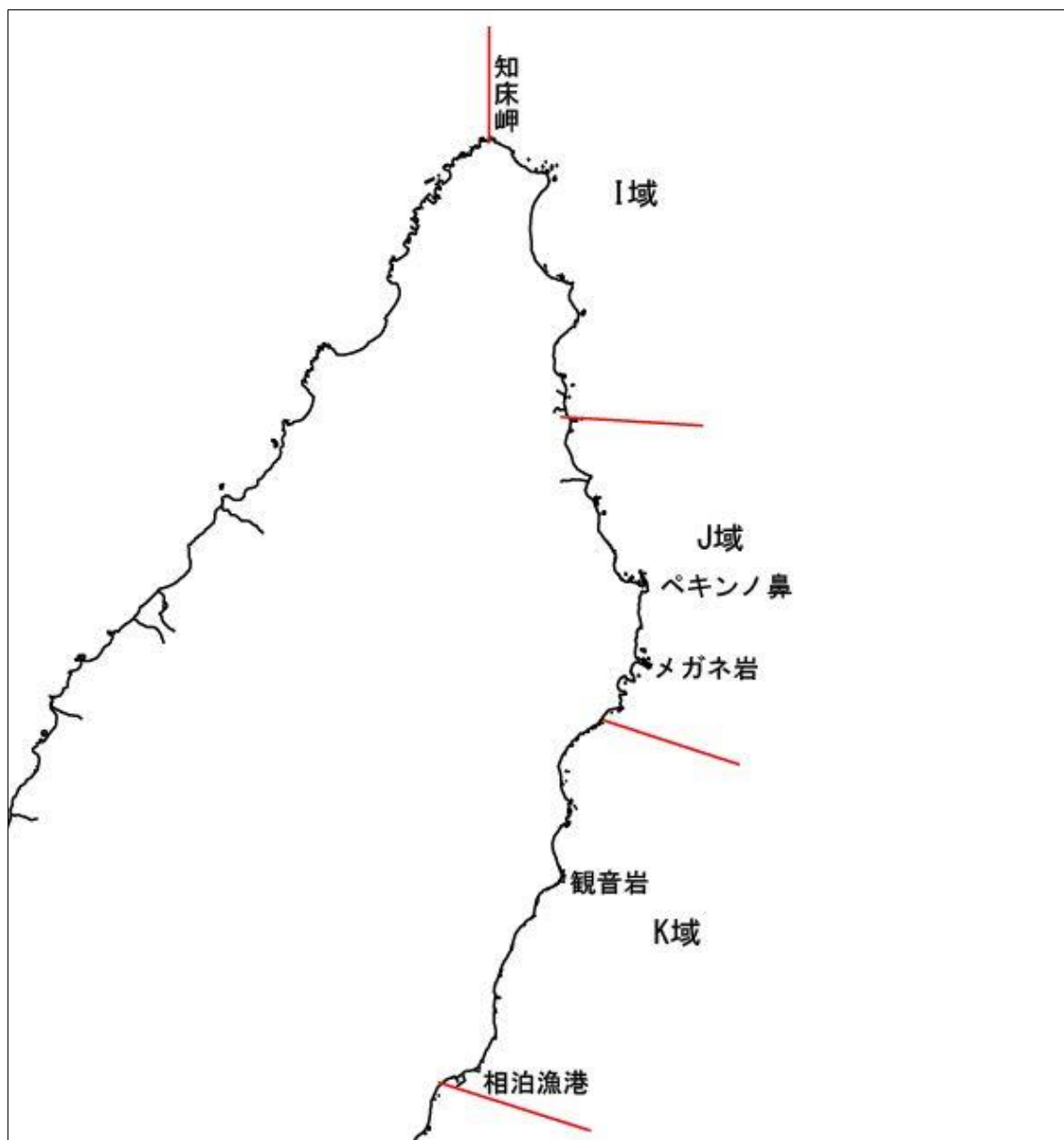
知床半島では繁殖の記録はない。繁殖期に飛来する個体は近隣の国後島や択捉島の島嶼部で繁殖するものだと考えられる。最高個体数は繁殖期の6月18日の536羽で、天狗岩沖で353羽を確認した。この時期は育雛期にあたるものと考えられる。この日は、これまで最も個体数が多く確認された峯浜沖が霧のため視界が悪く個体を確認することが出来なかったため、さらに多くの個体が飛来していた可能性が高い。

2-1-2. 海上からの海鳥調査

<調査範囲>

相泊～知床岬の沿岸およびその海域における、船舶を用いた海上調査を実施した。

相泊～知床岬の沿岸およびその海域については、I～Kの3区間に分け、さらに岸側と沖側に分けて調査用紙を作成し海上調査時に用いた。



図一27) 海上調査位置図と区域割図

表-27) 海上からの調査時の気象条件

日付	天候	波高	海水温(平年比)	気温	風向	風速
6月18日	晴	1m	9°C(+2°C)	22.6°C	南南東	2.7m

<調査方法>

相泊～知床岬の沿岸およびその海域については、作成した調査用紙をもとに調査を行った。できるだけ波の状態の良い日を選んで小型漁船にて相泊港発着で、基本的にK岸側、J岸側、I岸側を往路とし、知床岬にて海上約3km～4kmほど沖に出し、I沖側、J沖側、K沖側を復路として調査を行った。

海鳥がいる場合は徐行し海鳥の行動を妨害しないよう注意を払って航行した。調査日および調査時間帯の条件については、表-27に示すとおりであった。

調査は、船上から12倍の防振双眼鏡を用いて海上を観察し、観察できる範囲に出現したすべての海鳥の個体数を記録した。

・2025年6月18日の沿岸海鳥調査

表-28) 2025年6月18日海上センサスで観察された海鳥の種類と個体数

No	種別\区域	相泊～タケノコ岩	タケノコ岩～滝の下	滝ノ下～知床岬	滝ノ下～知床岬	タケノコ岩～滝の下	相泊～タケノコ岩	合計
		K域往路	J域往路	I域往路	I域復路	J域復路	K域復路	
1	アホウドリ						1	1
2	クロアシアホウドリ					1	1	2
3	フルマカモメ			18	18	46	27	109
4	ヒメウ	1	4	25				30
5	ウミウ	7	64	118				189
6	ウミネコ	138	61	101			1	301
7	オオセグロカモメ	173	190	178	6	5	2	554
8	ウトウ			2	27	5	11	45
9	ハシボソミズナギドリ				20	31	48	99

調査日は海鳥の育雛期にあたり、営巣分布調査と海上センサスを並行して行った。羅臼側では2021年からウミネコの営巣を確認しており、2023年には31巣を確認したが雛の確認はできなかった。2024年から営巣は確認できていない。営巣をしなくなった原因として繁殖が上手く行かなかった事が原因であると考えられる。

ウトウも45羽と少数であった。繁殖期ではあるが餌資源である小魚が少なかったと考えられる。

ハシボソミズナギドリも5月13日の陸上調査では8万1千羽を確認したが、今回の調査では99羽と少数であり大きな群れはすでに通過して行ったと考えられる。

なお6月7月に各2回の調査を予定していたが、高波が続いたために調査が中止となり6月18日の1回の調査にとどまった。そのため環境省担当官と協議し、7月5日に観光船において海鳥調査を行い補足調査とした。



図 - 28) 観光船の航路

6月18日12時45分～14時55分の羅臼漁港発着の観光船に乗船して調査を行った。今回の観光船の目的はシャチの観察であった。

表-29) 観光船で観察された鳥類

No	種類	個体数
1	アカアシミズナギドリ	9
2	ウトウ	36
3	ウミネコ	3
4	オオセグロカモメ	24
5	ハシボソミズナギドリ	140
6	フルマカモメ	10
7	ミズナギドリsp	43
8	クロアジアホウドリ	1

ハシボソミズナギドリは5月13日の陸上調査では8万1千羽を確認したが、今回の調査ではミズナギドリ sp も合わせても183羽と少数であった。大きな群れは既に通過して行ったと考えられる。またこの時期では珍しいアカアシミズナギドリを9羽確認した。例年であれば8月以降の出現が多い。アホウドリ類はクロアジアホウドリ1羽だけの確認であった。

まとめ

羅臼沖の根室海峡は、知床半島と国後島に挟まれた細長い海域で、宗谷暖流がオホーツク海から流れ込む一方で冬期間にはサハリン東海岸の寒流が入り込み流氷も到来し、季節によってダイナミックに流れが変化する。そして水深は先端部で2000mを超える一方、半島の基部の海峡は20mと浅く、その中央部分は湾のように水深が急激に変化している。

また、近年は海洋熱波といわれる、海面水温が過去の平均に比較して極端に高い日が夏期に続いている。海水温が上昇するとプランクトンの質や量が変化し、それを食べる小魚が減少したり分布域を変化させていると考えられる。

海鳥は、目に触れやすい海洋生物の代表である。沿岸と沖合の生息状況を把握するモニタリング調査は長期にわたり海の健康状態を知る上で不可欠であると考えられる。

小型船による調査は、沿岸の海鳥の個体数や営巣数を把握する上で必要であるが、使用する船舶が小型のため海況による影響を受けやすい。

今後は、沖合の海鳥の生息状況を把握するために、羅臼港発着の観光船を利用した調査も必要であると考えられる。

3. ケイマフリ

3-1. 海上分布調査及び個体数調査

<調査方法>

2025年6月17日から7月23日までの期間に計10回の調査を行った。調査は、調査条件を揃えるため、波高が1m以内で実施とした。調査時間は、調査海域の東側に崖がそびえ早朝は岸に近い海域が日陰になり逆光で目視調査が困難であるため、十分に日が当たる午前10時から11時以降に開始した。ただし、波高や天候により調査時間を変更することもあった。調査範囲は、ケイマフリが海上で生息するウトロ港からエエイシレド岬までとした。調査航路は、ウトロ港からプユニ岬間は直線的に航行し、プユニ岬からエエイシレド岬間は往路約50m～100m沖を、復路は約400m沖を航行してカウントした。調査には小型船舶を利用し、約2～4ノットの速度で航行し海上および陸上で発見した個体の数・位置などの情報を記録した。なお、海岸線を基にして約100mメッシュで海域を区切り数と位置を記録した。観察地点の位置情報は船舶装備のGPSで決定した。

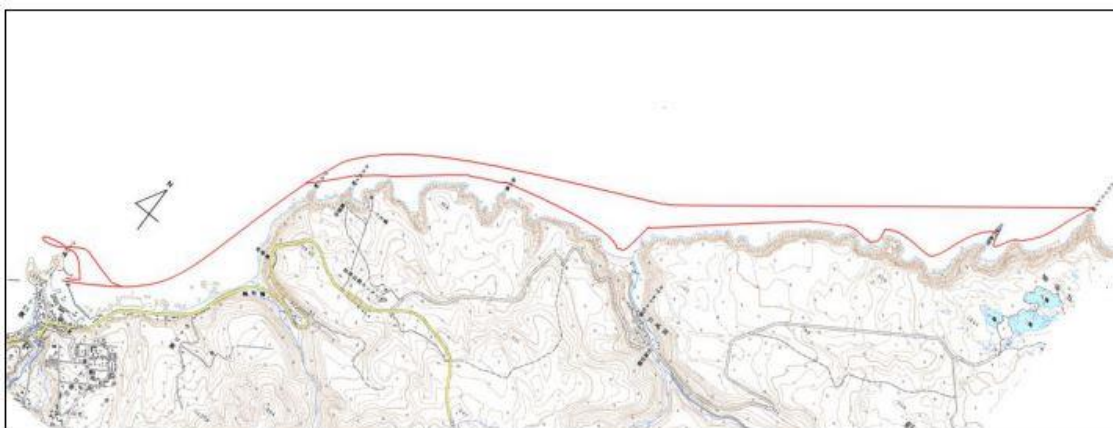


図-29) ケイマフリ個体数モニタリングの航路 (国土地理院2万5千の1地形図を加工)

<調査結果>

表-30) ケイマフリ海上センサス結果 (気温はアメダスのウトロ観測地点の正午の記録、海面水温と平均値は気象庁の海の健康診断の図より引用)

No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
調査日	6月17日	6月29日	7月4日	7月7日	7月9日	7月13日	7月18日	7月19日	7月20日	7月23日
天候	曇り	晴	曇り	曇り	晴	晴	曇り	曇り	晴	快晴
気温(°C)	25.5	15.1	28.4	30.1	21.8	25.1	33.3	26.4	25.5	32.9
波高	0.5	1	0.5	0.5	1	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
海水温(°C)	12	15	16	18	18	15	18	19	19	21
平年比(°C)	+2	+4	+5	+6	+6	+3	+6	+6	+6	+7
個体数	51	69	174	180	52	218	187	105	116	182

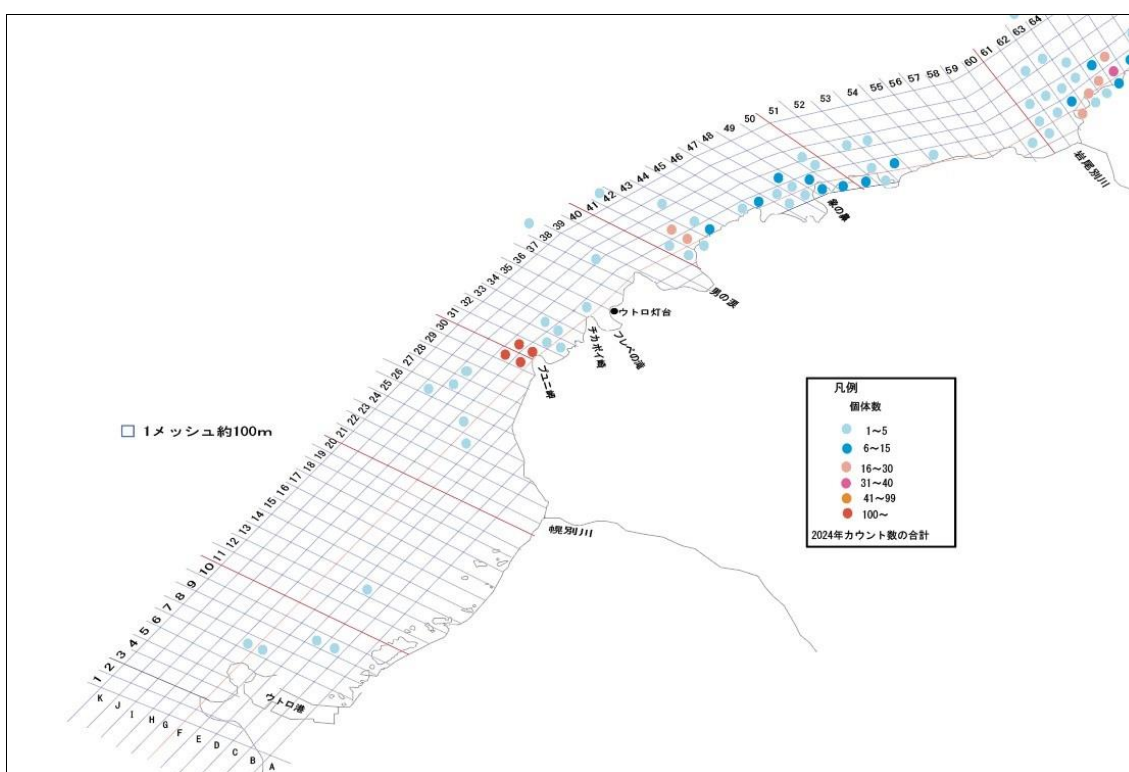


図-30) ケイマフリの海上分布 (ウトロ港～岩尾別湾)

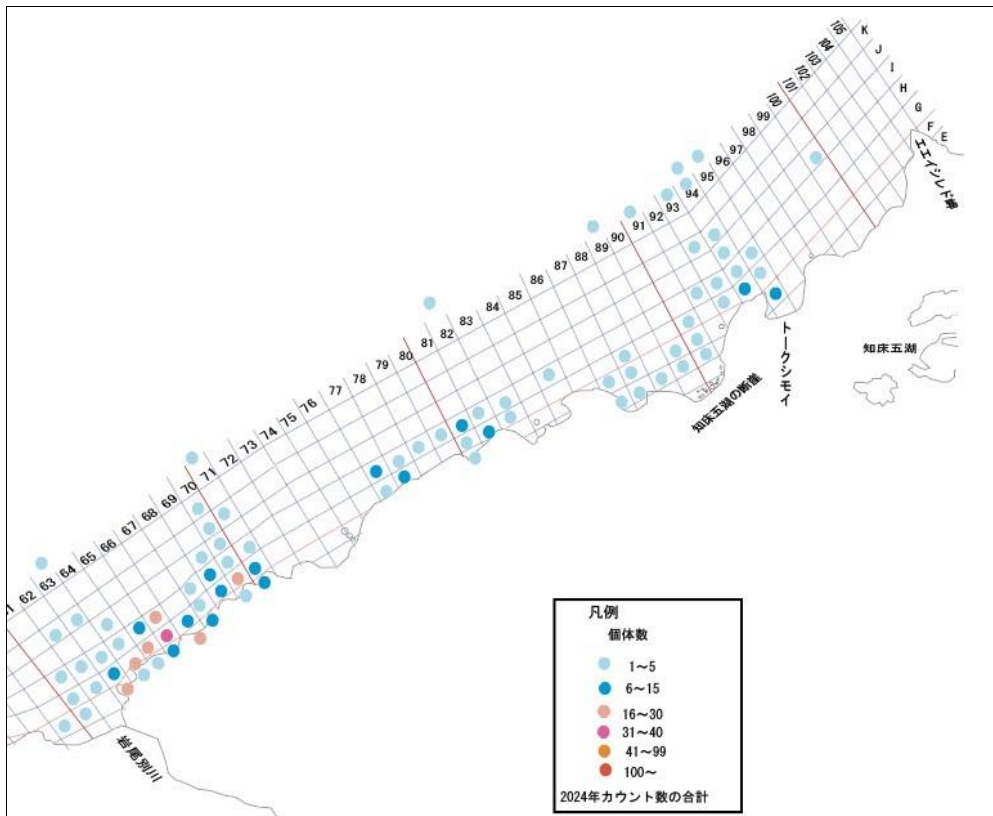


図-31) ケイマフリの海上分布 (岩尾別湾～エエイシレド岬)

2025年に観察された最大観察個体数は7月13日の218羽であった。海上分布では最大の繁殖地のあるプニ岬沖が最も多く、岩尾別湾から岩尾別台地周辺の沖がそれに続く密度であった。営巣地に出入りするために待機している個体が多かったと考えられる。

3-2. ケイマフリ営巣分布調査

<調査方法>

調査期間は、巣への出入りを確認した6月17日から7月23日まで行い、これまで営巣が確認されてきたプユニ岬からエエイシレド岬まで調査した。小型船舶を利用し海上で嘴に魚を咥えて巣に持ち帰る親鳥を追跡して、断崖を出入りしている場所を営巣中の巣として確定し場所と位置と数を記録した。また、前述の海上センサス調査中に同様の親鳥の行動が観察された場合も営巣地として記録した。また、7月20日と7月23日にはプユニ岬沖で2時間程度定点調査を行った。



図 - 32) ケイマフリ営巣分布調査位置図



図 - 33) ケイマフリが営巣する岩尾別断崖

〈ケイマフリ 営巣分布調査結果〉

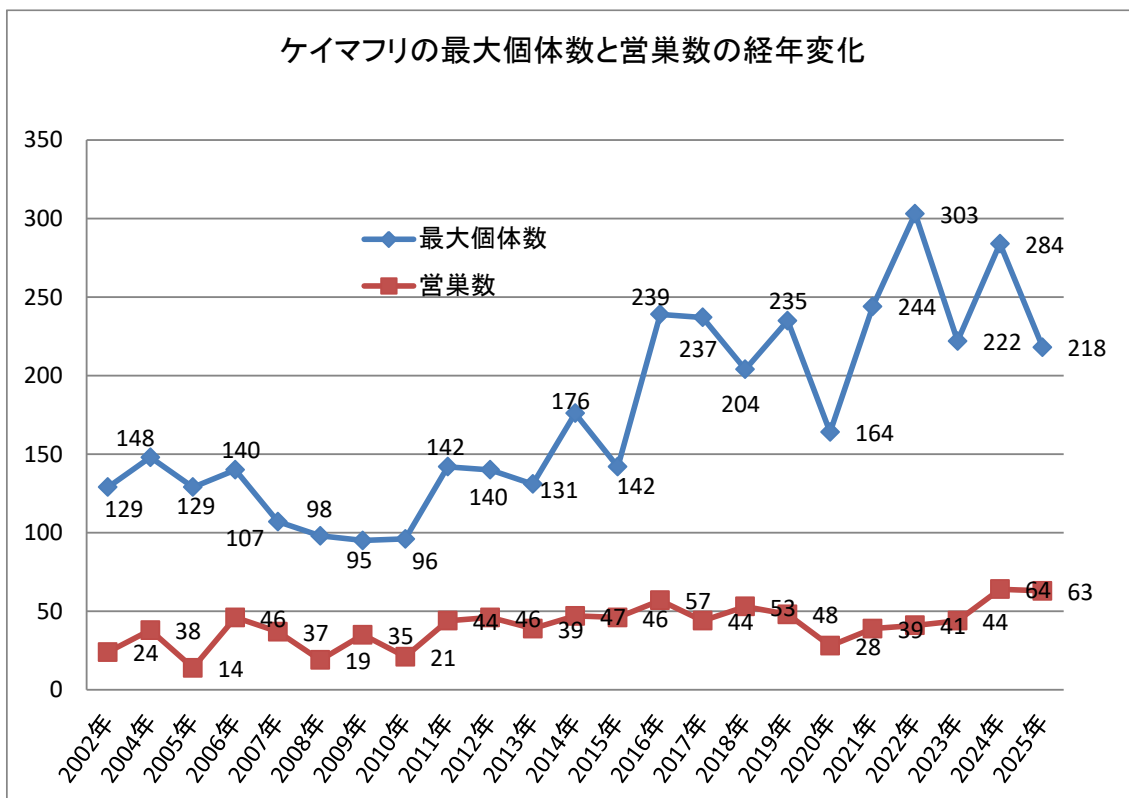


図-34) ケイマフリの最大個体数と営巣数の経年変化 (2002年～2025年)

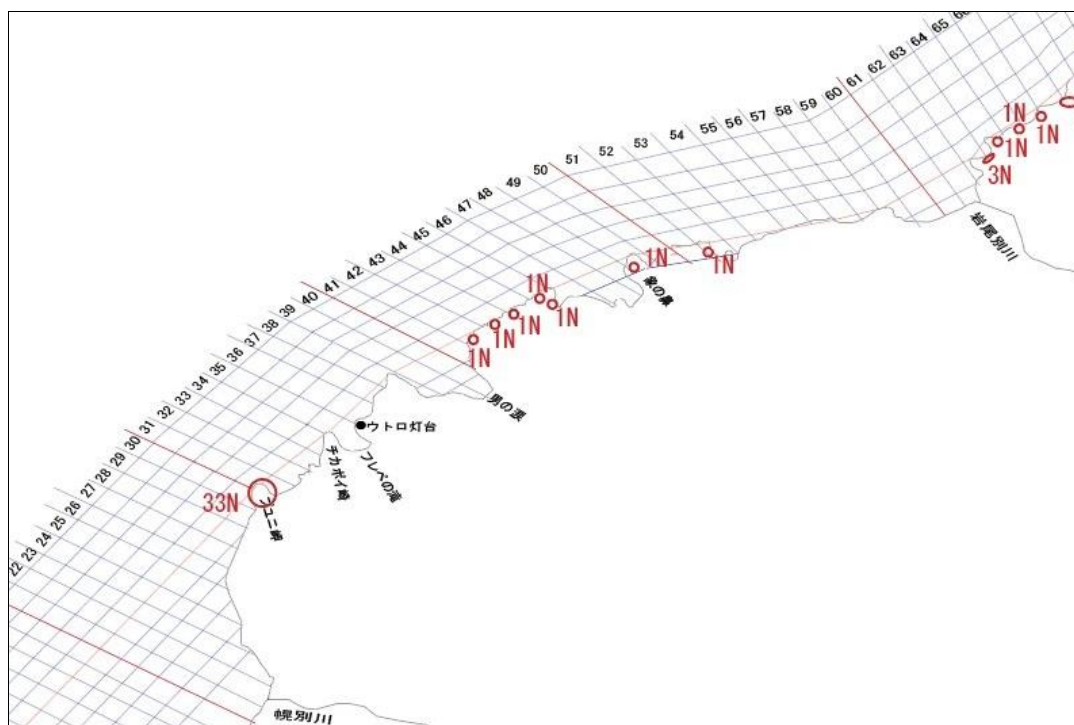


図 - 35) ケイマフリ 営巣分布調査 (プユニ岬から岩尾別川)

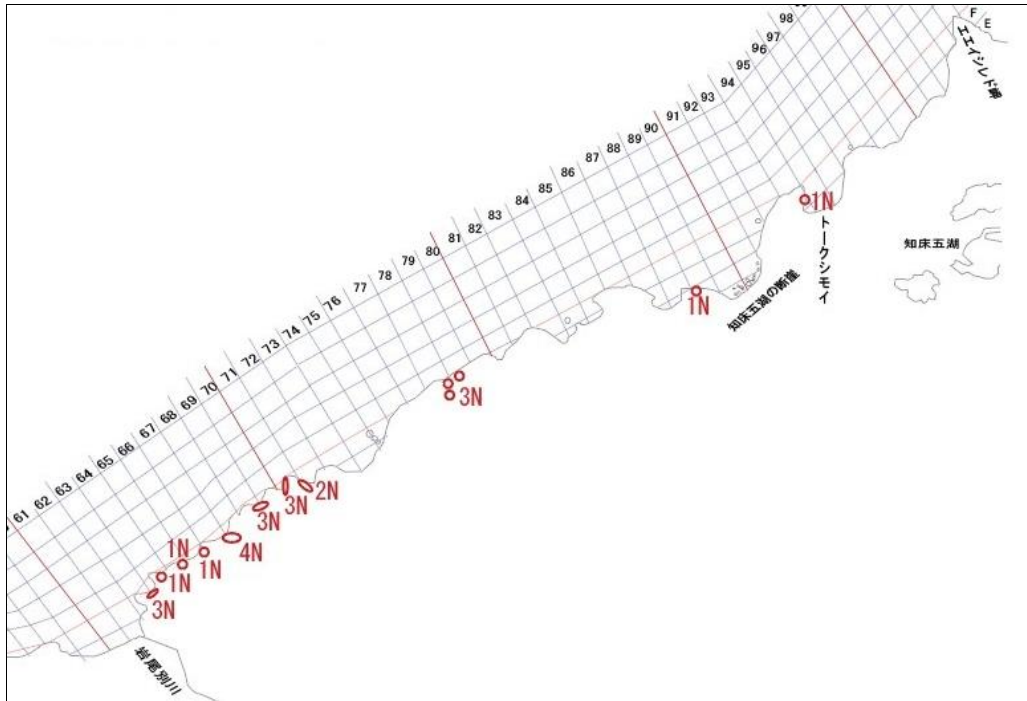


図 - 36) ケイマフリ 営巣分布調査 (岩尾別川からエエイシレド岬)

表-31) ケイマフリの営巣数の経年変化 (2002年～2012年)

地域名/年	2002年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
プニ岬～男の涙	10	11	7	25	24	6	25	9	23	21
男の涙～象の鼻	10	3	0	4	1	1	1	3	6	4
象の鼻～岩尾別	1	4	5	8	2	0	1	1	0	1
岩尾別台地	0	12	2	4	7	8	4	6	5	8
知床五湖の断崖	0	1	0	2	2	4	3	2	9	11
トークシモイ	3	7	0	3	1	0	1	0	1	1
Total	24	38	14	46	37	19	35	21	44	46

表 - 32) ケイマフリの営巣数の経年変化 (2013年～2025年)

地域名/年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
プニ岬～男の涙	19	25	25	26	18	34	26	10	21	27	21	40	33
男の涙～象の鼻	4	4	2	0	4	5	8	3	2	2	4	3	6
象の鼻～岩尾別	0	0	1	3	2	0	0	1	1	0	2	2	1
岩尾別台地	10	12	7	25	15	3	6	11	12	9	12	14	21
知床五湖の断崖	6	5	10	2	6	4	2	1	2	1	0	1	1
トークシモイ	0	1	1	1	1	7	6	2	1	2	5	4	1
Total	39	47	46	57	46	53	48	28	39	41	44	64	63

2025年の知床半島でのケイマフリの営巣数は63巣であった。最も多く営巣していたのはプユニ岬の33巣であり、岩尾別台地の断崖で32巣がそれに続いた。トークシモイでは1巣であった。岩尾別台地の崖は複雑でありプユニ岬と比較して距離も長いため、営巣数の全数を確認するのは困難である。そのため、実数よりも多く営巣している可能性もある。



図 - 37) プユニ岬のケイマフリの営巣地 (○が営巣地点)

3-3. ケイマフリの餌構成調査

ケイマフリ生息状況調査の調査中に確認した、育雛期に巣内のヒナに持ち帰るために嘴に魚類をくわえている個体を観察し餌構成調査を行った。

表 - 33) ケイマフリの餌構成の経年変化

No	月日	イカナゴ	カレイ類	カジカ類	ギンポ類	不明	合計
1	6月17日	1	1				2
2	6月29日	16	12	2		12	42
3	6月30日	6	6			8	20
4	7月4日	9	1			1	11
5	7月7日	3	2		1		6
6	7月9日	1					1
7	7月13日	3				2	5
8	7月19日	1	1			1	3
9	7月20日	10	5	1	1	5	22
10	7月23日	3	3			2	8
		53	31	3	2	31	

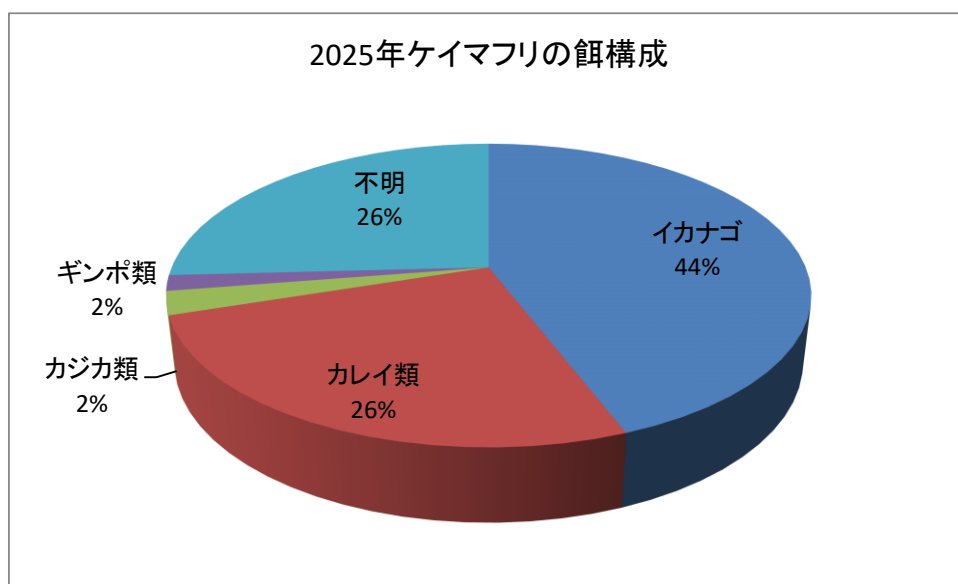


図 - 38) 2025 年ケイマフリの餌構成の割合

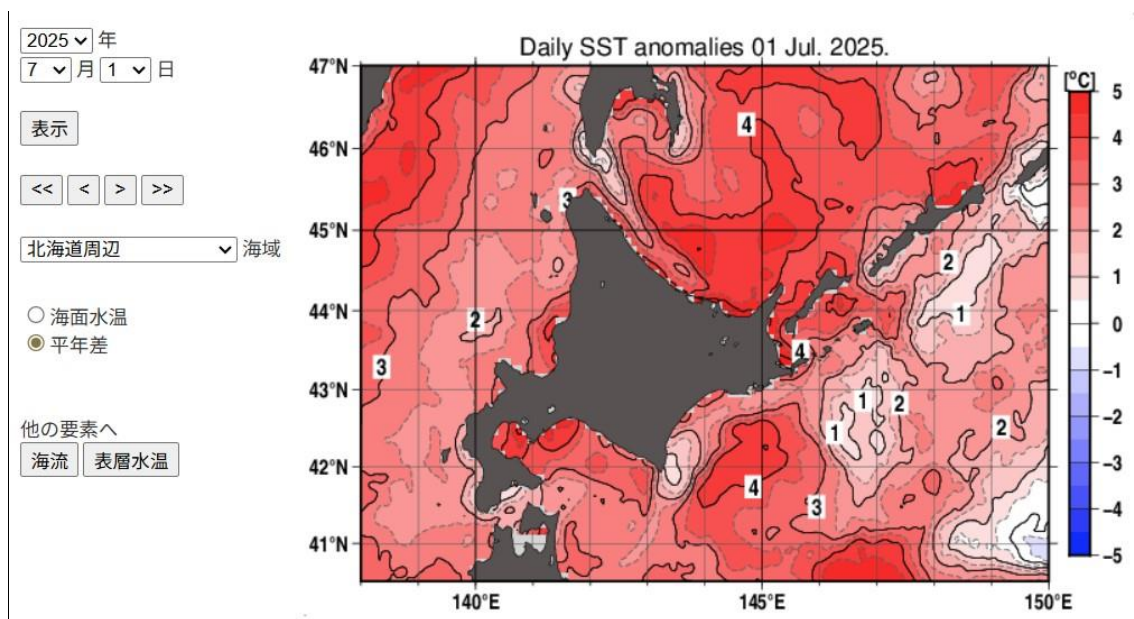


図-39) イカナゴをくわえるケイマフリ

表-34) ケイマフリの餌構成の経年変化 (2011年~2025年)

	2011年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
イカナゴ	80%	76%	88%	94%	97%	96%	94%	94%	76%	48%	75%	55%	85%	44%
ギンポ類	6%	10%	7%		3%	4%	3%	1%	4%	9%	15%	17%		2%
カレイ類	1%	2%							8%	13%	3%	10%	5%	26%
カジカ類	5%	7%	5%	3%					4%	3%	2%	12%		2%
エゾメバル									6%					
カタクチイロシ	2%												7%	
不明		5%		3%			3%	3%	2%	27%	5%	6%	3%	26%

ケイマフリの生息状況を知る上で重要な餌構成についての調査も行った。この調査はケイマフリの生息海域の小魚の生息状況も推察することができる。2025年にケイマフリがヒナのために持ち帰る餌構成は、イカナゴ 53例 44%、カレイ類 31例 26%、カジカ類 3例 2%、ギンポ類 3例 2%で不明種 31例 26%であった。不明種は形からイカナゴでもカレイ類でもない種であった。2011年からの餌構成の調査の中でイカナゴの割合が最も低い44%であった。イカナゴは高い海水温を避けるため今年は海水温が高い状況が続いたことからイカナゴの生息数が少なかったと考えられる。



図一40) 2025年7月1日の日別海面水温の平年比

3-4. ケイマフリ生息分布調査についての考察

2022年が過去最高の303羽から2023年222羽と減少したが2024年は284羽と回復し2025年は218羽と減少した。営巣数も過去最高の64巣を確認した2024年から2025年は1巣減少した63巣であった。ケイマフリの営巣地は崖の穴や隙間に営巣するために全数を確認するのは困難であるため単に比較はできない。近縁種のウミバトでは1日平均16回雛に給餌するという研究結果があり、観察時間がタイミングに合致すれば確認数が前後する可能性もある。

知床半島での雛に給餌する餌構成は、主食のイカナゴが44%と2011年からの調査では過去最低の割合であった。2024年は85%と前年の55%から回復したが再び減少した。カレイ類が26%と過去最高の割合であった。イカナゴは高い海水温を避けるため今年は海水温が高い状況が続いたことからイカナゴの生息数が少なかったと考えられる。

水温も高い状態が続き育雛期の6月上旬から7月下旬は平年よりも高い海水温の日が続き、7月23日には平年よりも7℃も高い21℃の海水温であった。今後もケイマフリの繁殖期に高い海水温の影響が繁殖成功率の低下などの影響を与える可能性もあり、今後もデータを収集し蓄積し解析する必要がある。

4. 知床半島ウトロ地域における海鳥繁殖期のオジロワシ生息分布状況調査

<調査目的>

知床半島のウトロ側は国内でも有数の海鳥の繁殖地でケイマフリ・ウミネコ・オオセグロカモメ・ウミウが繁殖している。しかし、近年になり、ウミネコ・オオセグロカモメ・ウミウの営巣数が減少しており、オジロワシによる捕食圧が減少の要因のひとつになっていると考えられている。そこで、オジロワシの個体数とその年齢構成、オジロワシによる海鳥への直接的な捕食行動について調査し個体数推移をモニタリングすることを目的とする。

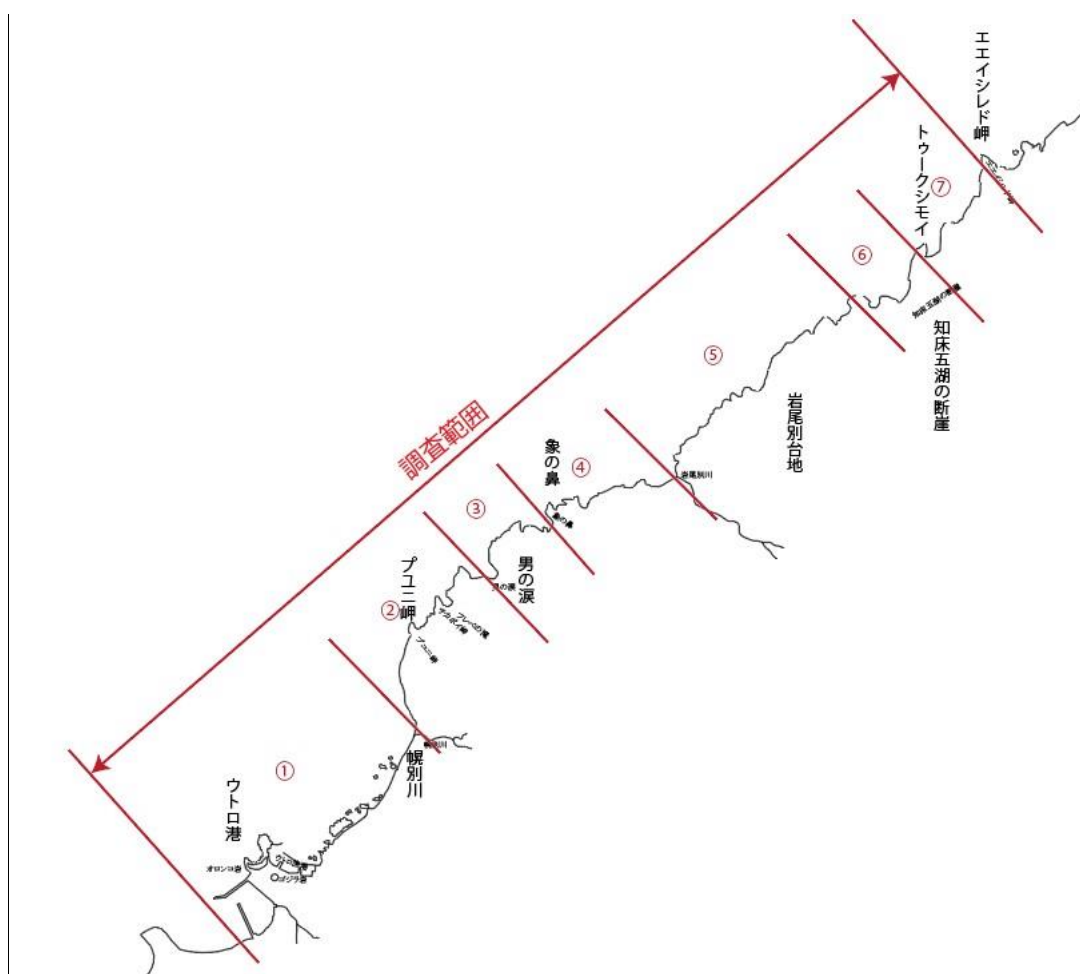


図-41) 調査位置図と調査範囲

<調査方法>

ケイマフリの生息状況調査と同時に行った。2025年6月17日から7月23日までの計11回の調査を行った。また、7月20日と7月23日にはプユニ岬沖で2時間程度定点調査を行った。

調査日の設定は、同じ条件で調査できるよう波高が1m以内の日とし、雨天のときは調査を行わなかった。調査時間については、調査海域の東側に崖がそびえており、早朝は岸に近い海域が日陰になり逆光で目視調査が困難であるため、充分日が当たる午前10時から11時まで開始した。ただし、波高や天候により調査時間を変更した。調査範囲はケイマフリ生息状況調査と同じウトロ港からエエイシレド岬までとし、調査航路はウトロ港からプユニ岬間は直線的に航行し、プユニ岬からエエイシレド岬間は往路約50m～100m沖を、復路は約400m沖を航行して陸上および上空のオジロワシを調査し、その個体数と年齢を地図上にトレースして記録した。

<調査結果>

表-35) オジロワシの個体数

No	調査日	オジロワシ				合計	備考
		成鳥	亜成鳥	幼鳥	不明		
1	6月17日					0	
2	6月29日	2				2	
3	6月30日					0	
4	6月29日	1				1	
5	7月4日					0	
6	7月9日					0	
7	7月13日					0	
8	7月18日	1				1	
9	7月19日	2		2		4	
10	7月20日	1				1	定点調査
11	7月23日	3		1		4	定点調査

<考察>

2025年のオジロワシの最大個体数は7月19日及び7月23日の4羽であった。7月23日は成鳥3羽・幼鳥1羽であった。オジロワシの幼鳥の初認は7月19日の2羽であった。

7月23日には、調査時間外にオロンコ岩でオオセグロカモメの雛を捕えたオジロワシが幌別方面へ飛去するところが観察された。

2021年は最大個体数17羽、2024年は最大個体数4羽、そして2025年も4羽と徐々に個体数は減少している。



図 - 42) 7月 23 日オオセグロカモメの雛を捕えて飛翔するオジロワシ成鳥

5. 2025 年知床半島における海鳥の繁殖状況

<調査対象種と調査範囲>

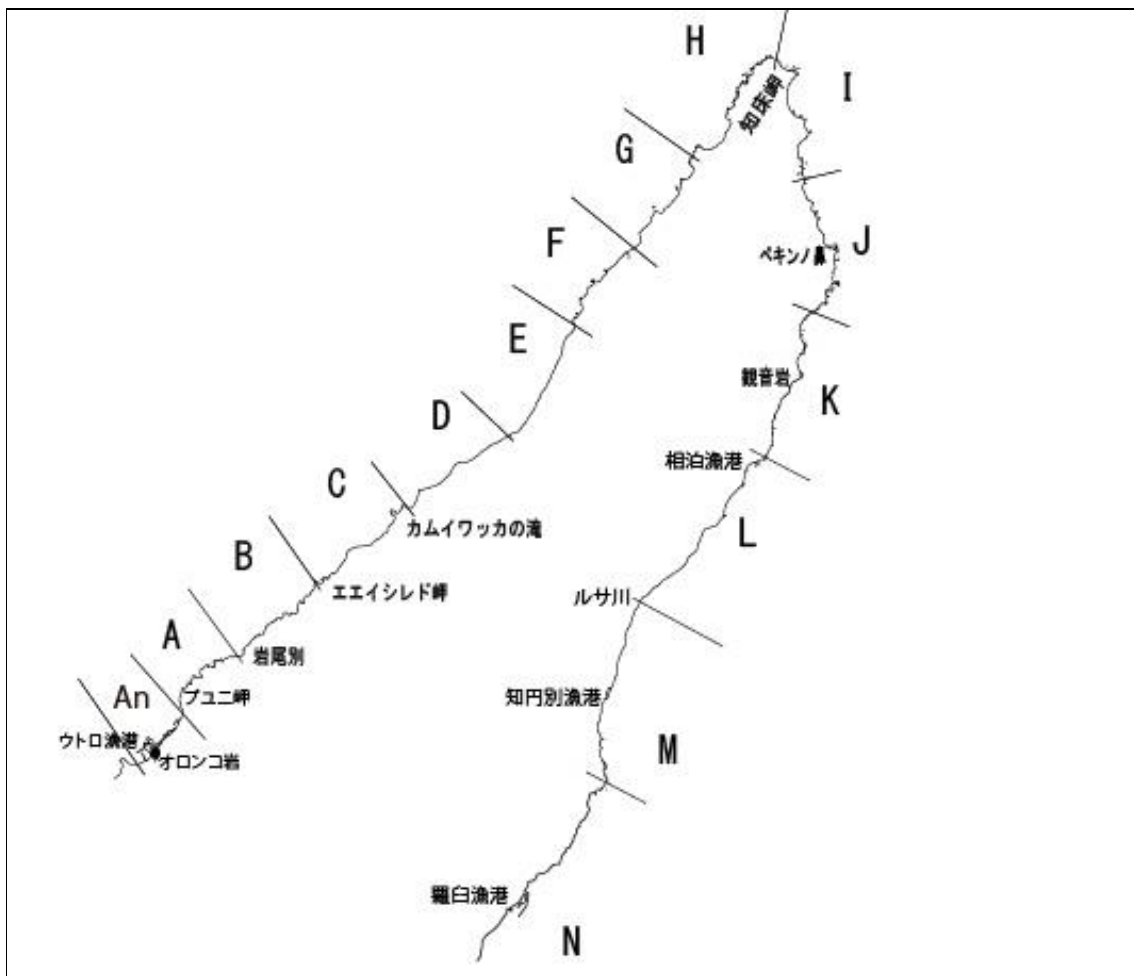


図 - 43) 知床半島調査地区図

本地域で繁殖するウミウ、ウミネコ、オオセグロカモメを調査対象とした。斜里町ウトロ漁港周辺から羅臼町漁港周辺までを A 域から N 域までの 15 区域に分け、A から K までは、小型船舶を用いて海上から調査し、An 域及び L 域から N 域は陸上から調査を行い各海鳥種の営巣数を数えた。斜里側の An 域と羅臼側の M 域・N 域は世界遺産地域外で A 域から L 域は世界遺産地域内である。

<調査結果と各海鳥の営巣状況と考察>

・2025年知床半島における海鳥類の営巣数

・オオセグロカモメの営巣状況

表-36) オオセグロカモメの区域別営巣数の経年変化 (1997年~2006年)

区域/年	1997年	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	
An	Aに含む										釧路側
A	599	637	785	569	806	642	806	784	760	1046	
B	139	238	223	354	421	31	109	95	100	91	
C	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	
D	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	
E	0	0	0	0	0	0	0	12	—	0	
F	73	271	355	191	21	20	63	16	—	81	
G	29	68	62	36	0	0	28	20	—	34	
H	80	257	284	297	69	119	165	153	—	163	
Total	920	1471	1709	1447	1317	812	1171	1080	860	1415	
I	—	—	—	—	—	—	105	148	—	88	羅臼側
J	—	—	—	—	—	—	189	303	—	231	
K	—	—	—	—	—	—	23	77	—	63	
L	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
M	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
N	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
Total							317	528	860	382	
知床半島全体											
Total	—	—	—	—	—	—	1488	1608	—	1797	

表-37) オオセグロカモメの区域営巣数の別経年変化 (2007年~2016年)

区域/年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年		
An	Aに含む									256	303	釧路側
A	745	547	604	560	527	412	196	161	32	5		
B	63	15	50	46	0	18	0	0	0	3		
C	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
D	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
E	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
F	17	38	38	58	30	16	39	6	34	0		
G	10	4	9	4	10	4	7	10	15	8		
H	154	188	115	128	180	96	49	115	126	79		
Total	1016	792	816	796	747	546	291	292	463	398		
I	102	69	91	73	78	45	2	4	46	8	羅臼側	
J	238	239	220	219	194	164	11	46	66	33		
K	102	54	71	127	134	66	33	69	45	31		
L	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
M	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
N	—	—	—	—	—	—	—	—	—	325		
Total	442	341	382	419	406	275	46	119	157	397		
知床半島全体												
Total	1458	1154	1198	1215	1153	821	337	411	620	795		

表-38) オオセグロカモメの区域別営巣数の経年変化 (2017年~2025年)

区域/年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	
An	263	386	294	88	212	223	280	184	244	斜里側
A	8	5	0	37	4	17	14	17	12	
B	2	7	5	7	2	2	11	0	0	
C	0	0	0	1	0	0	0	0	0	
D	0	0	0	1	0	0	0	0	0	
E	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
F	4	8	2	0	2	1	4	11	0	
G	2	6	0	0	0	12	7	38	5	
H	97	75	65	101	69	65	61	128	108	
Total	376	487	366	235	289	320	377	378	369	
I	9	23	18	2	11	41	39	8	9	羅臼側
J	51	54	40	49	58	27	135	15	35	
K	34	15	71	12	15	18	6	10	5	
L	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
M	0	0	0	76	57	47	61	49	62	
N	235	263	205	131	171	257	345	264	235	
Total	329	355	334	270	312	390	586	346	346	
知床半島全体										
Total	705	842	700	505	601	710	963	724	715	

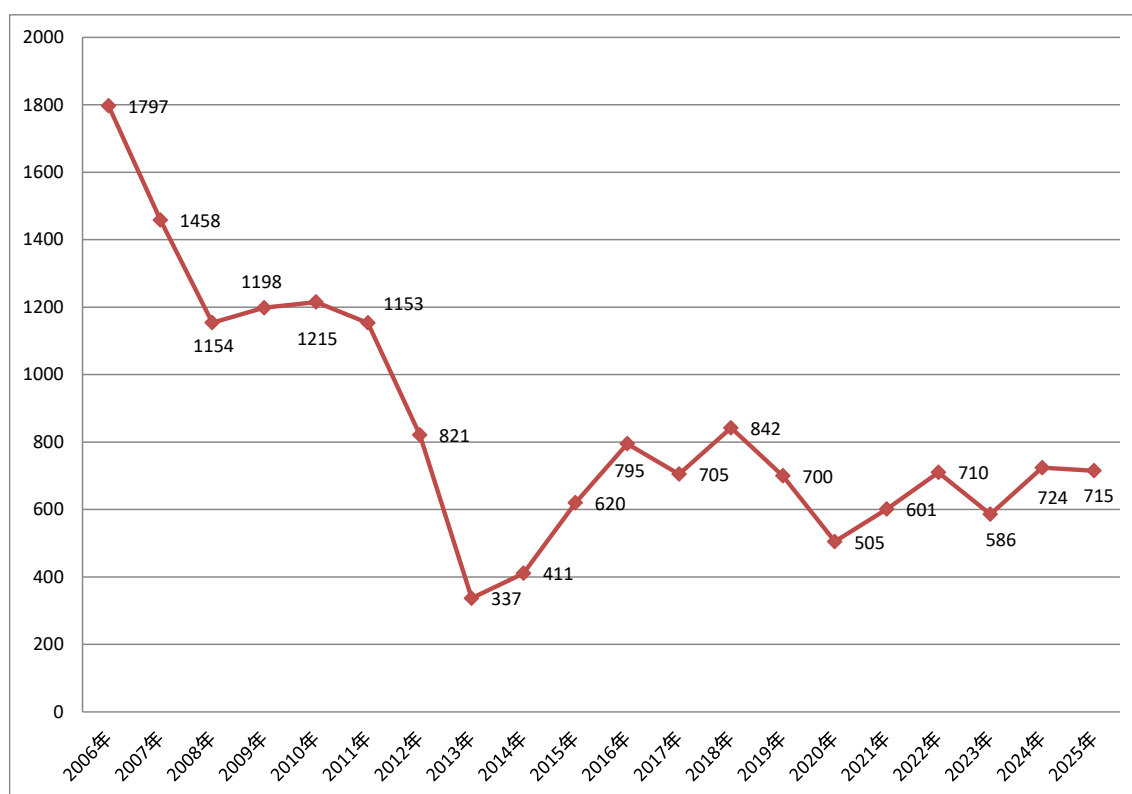


図-44) オオセグロカモメの営巣数の経年変化 (2006年~2025年)

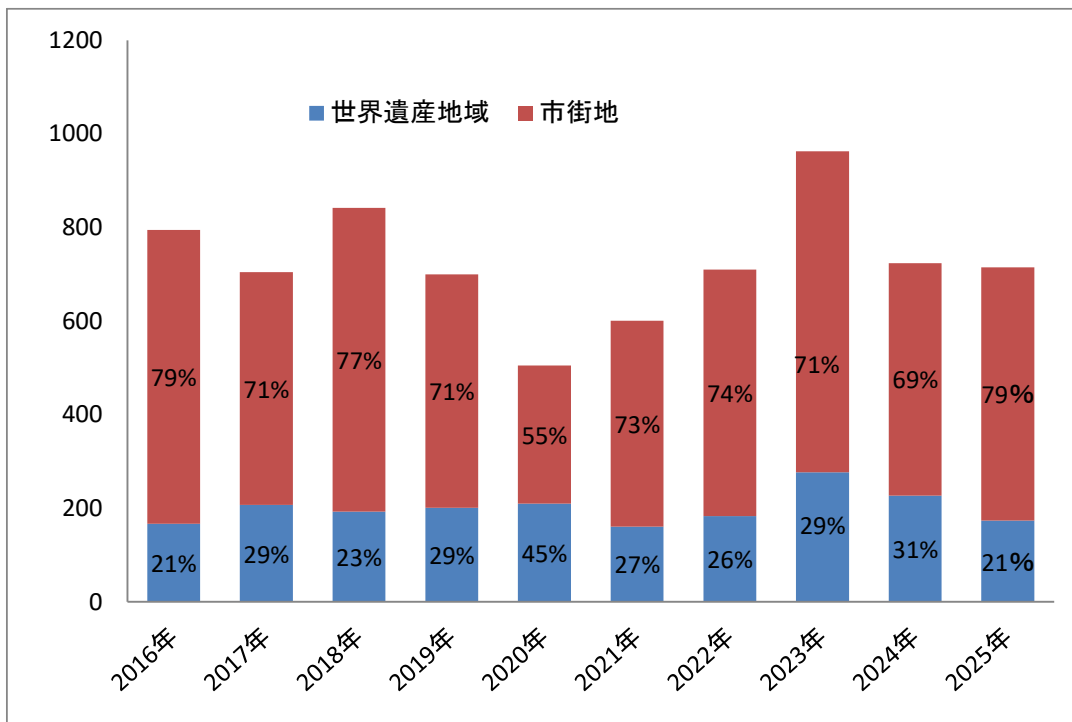


図-45) オオセグロカモメ営巣数の羅臼町と斜里町ウトロの市街地と世界遺産地域との割合 (2016年～2025年)

2025年の知床半島全体におけるオオセグロカモメの営巣数は715巣であった。1997年以降の最大営巣数は2006年の1727巣であった。しかし、この年は羅臼市街地や羅臼漁港での営巣数は数えられておらず、おそらく2000巣以上の営巣数があったと予想される。2020年には知床半島全体で505巣に減少した。2021年は601巣、2022年は710巣と増加したが2023年は586巣に減少し、2024年は724巣、2025年は715巣であった。これは誤差の範囲であり、ほぼ同じであると考えられる。前回のモニタリング1000と比較すると営巣数が2020年505巣から2025年715巣で210巣増加した。

羅臼漁港の防波堤では6月18日に177巣を確認し、7月17日に雛が104羽確認されたが、7月28日には雛が41羽となり、8月18日には巣立ち前後の幼鳥が20羽確認された。177巣で約20羽が巣立ったと考えられる。知円別漁港では、6月18日に48巣を確認し、7月14日には雛33羽、7月28日には雛4羽、8月18日には巣立ち前後の幼鳥が3羽確認された。

オオセグロカモメの産卵数は3卵であり、それを考慮すると、かなり低い巣立ち率だと思われる。羅臼漁港と知円別漁港ともにオジロワシの捕食圧が影響して繁殖成功率が低下していると考えられる。

また、知床岬に近いタカサラウニではNHKの撮影でヒグマがオオセグロカモメの雛を捕食するところが撮影され、7月23日にはオロンコ岩でオオセグロカモメの雛を捕えたオジロワシが幌別方面へ飛去するところが観察された。



図-46) 2025年7月17日羅臼漁港防波堤のオオセグロカモメの営巣地



図-47) 2025年7月17日羅臼知円別漁港のオオセグロカモメの営巣地

・ウミネコの営巣状況

表-39) ウミネコの区域別営巣数の経年変化 (1997年～2006年)

区域/年	1997年	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	
An	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	斜里側
A	94	280	346	612	772	159	226	122	134	0	
B	18	114	54	26	4	0	0	0	27	147	
C	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
D	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
E	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
F	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
G	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
H	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
Total	112	394	400	638	776	159	226	122	161	147	
I	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	羅臼側
J	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	
K	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	
L							0	0	0	0	
N							0	0	0	0	
M							0	0	0	0	
Total	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	
知床半島全体											
Total	—	—	—	—	—	—	226	122	161	147	

表-40) ウミネコの区域別営巣数の経年変化 (2007年～2016年)

区域/年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	
An	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	斜里側
A	0	6	166	56	0	0	0	12	0	8	
B	3	214	199	282	256	119	0	0	0	0	
C	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
D	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
E	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
F	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
G	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
H	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
Total	3	220	365	338	256	119	0	12	0	8	
I	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	羅臼側
J	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
K	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
L	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
N	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
M	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
Total	0	0		0	0	0	0	0	0	0	
知床半島全体											
Total	3	220	365	338	256	119	0	12	0	8	

表-41) ウミネコの区域別営巣数の経年変化 (2017年~2025年)

区域/年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	
An		10	0	0	0	0	0	0	0	斜里側
A	0	105	0	0	0	28	41	14	67	
B	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
D	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
E	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
F	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
G	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
H	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
Total	0	115	0	0	0	28	41	14	67	
I	0	0	0	0	0	0	0	0	0	羅臼側
J	0	0	0	0	15	5	31	0	0	
K	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
L	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
N	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
M	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
Total	0	0	0	0	15	5	31	0	0	
知床半島全体										
Total	0	115	0	0	15	33	72	14	67	



図-48) ウミネコの雛 (茶色) と親鳥

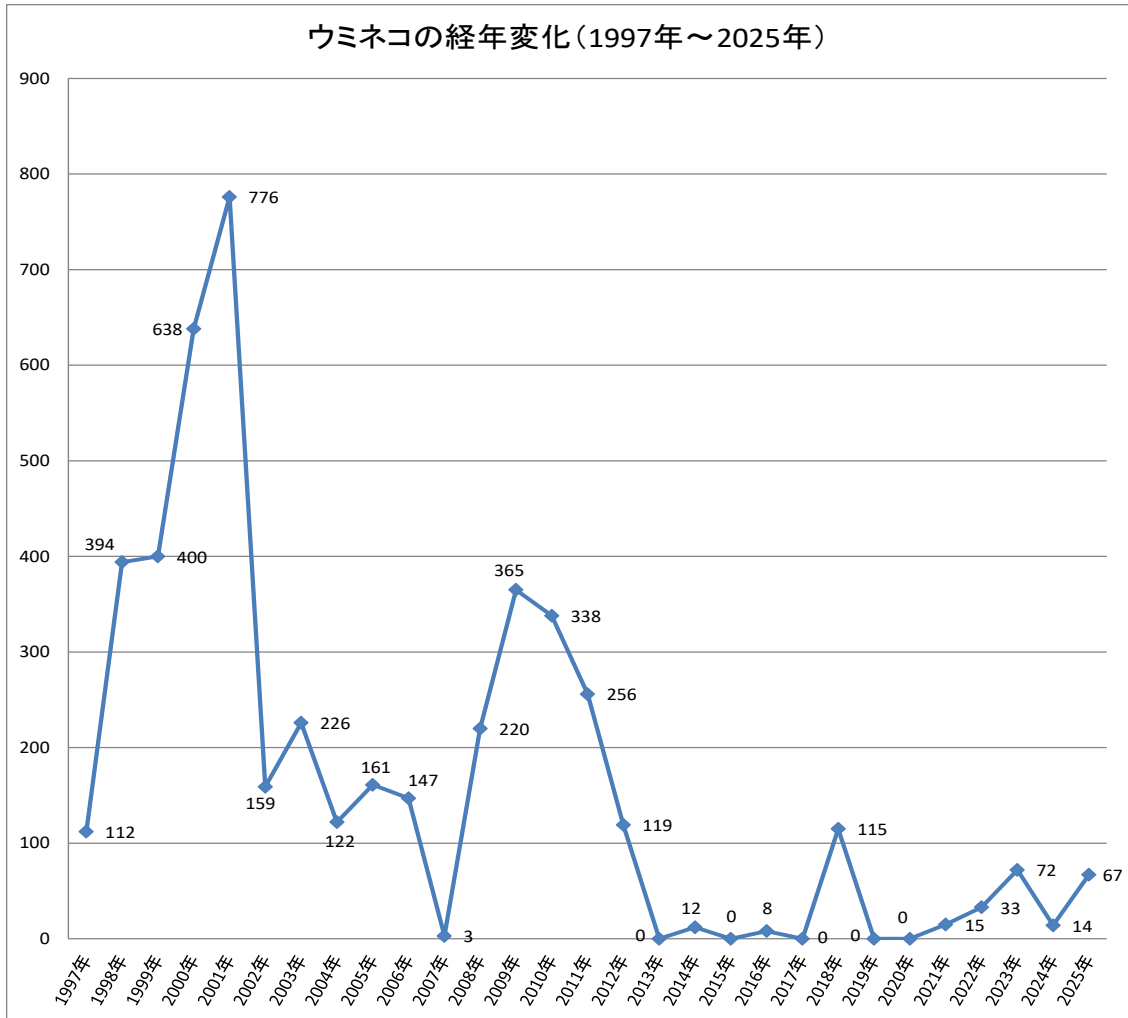


図-49) ウミネコの営巣数の経年変化

2001年の776巣をピークに減少している。2021年から回復傾向にあったが、2024年は14巣と減少した。2025年の営巣数は67巣であった。前年比53巣の増加である。

営巣地は全てウトロ側のA域の象の鼻の南側にある湾の斜面であった。6月30日には3巣で雛が2羽+2羽+3羽確認された。7月19日には巣立ちした幼鳥が1羽確認された。繁殖成功率は非常に悪い状況である。この種の営巣数が減少した原因として考えられるのは、餌資源の減少と天敵であるヒグマとオジロワシの捕食圧が原因だと考えられる。

・ウミウの営巣状況

表-42) ウミウの区域別営巣数の経年変化 (1997年～2006年)

区域/年	1997年	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	
An	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	斜里側
A	270	194	200	214	157	63	231	97	218	304	
B	140	159	162	209	0	114	229	137	200	206	
C	0	0	0	0	0	80	0	0	—	0	
D	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	
E	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	
F	44	66	49	67	96	0	14	15	—	14	
G	2	20	1	23	46	0	0	63	—	33	
H	106	163	106	107	79	48	64	64	—	144	
Total	562	602	518	620	378	305	538	376	418	701	
I	—	—	—	—	—	—	—	54	—	0	羅臼側
J	—	—	—	—	—	—	42	37	—	36	
K	—	—	—	—	—	—	0	0	—	10	
L	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
M	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
N	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
Total	—	—	—	—	—	—	42	91	—	46	
知床半島全体											
Total	562	602	518	620	378	305	580	467	418	747	

表-43) ウミウの区域別営巣数の経年変化 (2007年～2016年)

区域/年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	
An	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	斜里側
A	214	338	559	302	259	298	92	90	291	153	
B	127	113	137	157	76	75	19	161	145	62	
C	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
D	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
E	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
F	7	21	14	19	0	36	0	10	10	0	
G	0	9	21	0	0	9	0	9	0	0	
H	51	62	24	91	51	79	44	37	78	88	
Total	399	543	755	569	386	497	155	307	524	303	
I	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	羅臼側
J	41	62	44	54	46	0	0	7	0	0	
K	5	5	7	19	7	36	10	0	14	0	
L	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
M	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
N	—	—	—	—	—	—	—	—	18	12	
Total	46	85	51	73	53	36	10	7	32	12	
知床半島全体											
Total	445	628	806	642	439	533	165	314	556	315	

表-44) ウミウの区域別営巣数の経年変化 (2017年～2025年)

区域/年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	
An	0	0	0	100	43	68	33	0	44	斜里側
A	70	59	88	53	59	76	55	66	71	
B	25	133	78	67	4	41	0	12	18	
C	0	0	0	14	0	0	0	0	0	
D	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
E	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
F	0	0	0	0	7	1	0	4	0	
G	0	0	0	0	0	0	22	5	0	
H	78	34	35	80	47	53	9	69	88	
Total	173	226	201	314	160	239	119	156	221	
I	0	0	0	0	0	47	0	0	0	羅臼側
J	0	0	0	24	25	0	22	21	11	
K	14	25	29	0	0	0	0	0	0	
L	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
M	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
N	0	0	2	7	9	5	0	0	0	
Total	14	25	31	31	34	52	22	21	11	
知床半島全体										
Total	187	251	232	345	194	291	141	177	232	

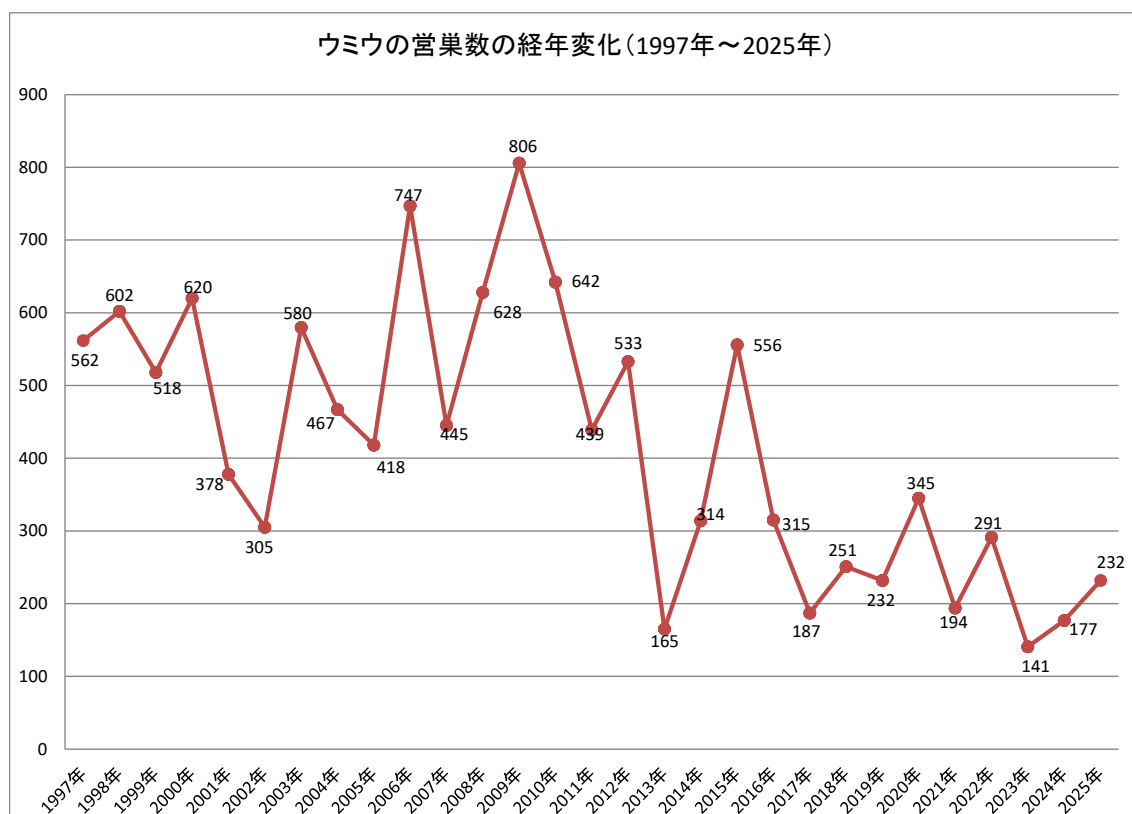


図-50) ウミウの営巣数の経年変化

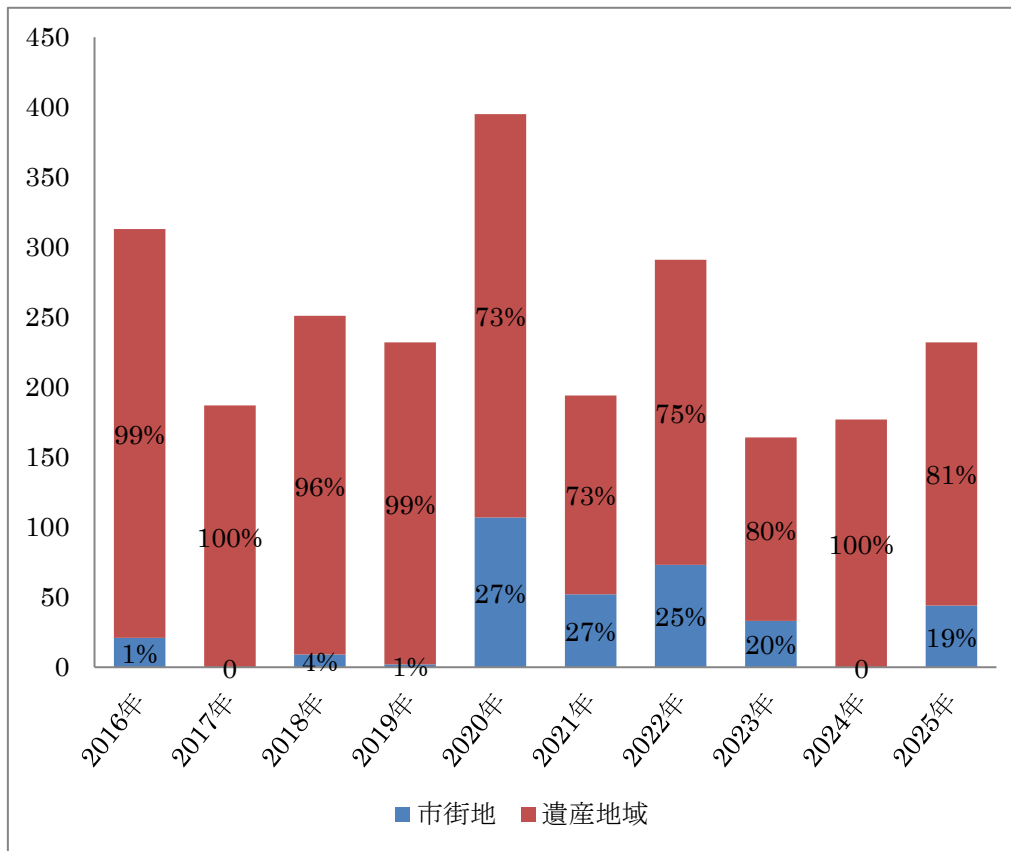


図-51) ウミウ営巣数の羅臼町と斜里町ウトロの市街地と世界遺産地域との割合 (2016年～2025年)

2025年の営巣数は232巣で前年の177巣よりも55巣増加した。しかし、2009年の806巣から比較すると増減を繰り返しながら減少傾向にある。2025年にもっとも営巣数の多かった場所は知床岬に近いウトロ側の獅子岩で71巣であった。ウトロ市街地のオロンコ岩では44巣が確認された。前年はオジロワシが頻繁に飛来し営巣を放棄していた。本年もオジロワシは頻繁に飛来していたものの繁殖活動を維持していた。

6. 知床世界自然遺産地域科学委員会海域ワーキンググループの資料案の作成

「知床世界自然遺産地域科学委員会海域ワーキンググループ」において、「知床世界自然遺産地域長期モニタリング計画」に位置付けられているモニタリング項目 No.6「ケイマフリ・ウミネコ・オオセグロカモメ・ウミウの生息数、営巣地分布と営巣数調査」についての2025年度の調査結果をまとめた資料を掲載する。

図-1)知床半島位置図

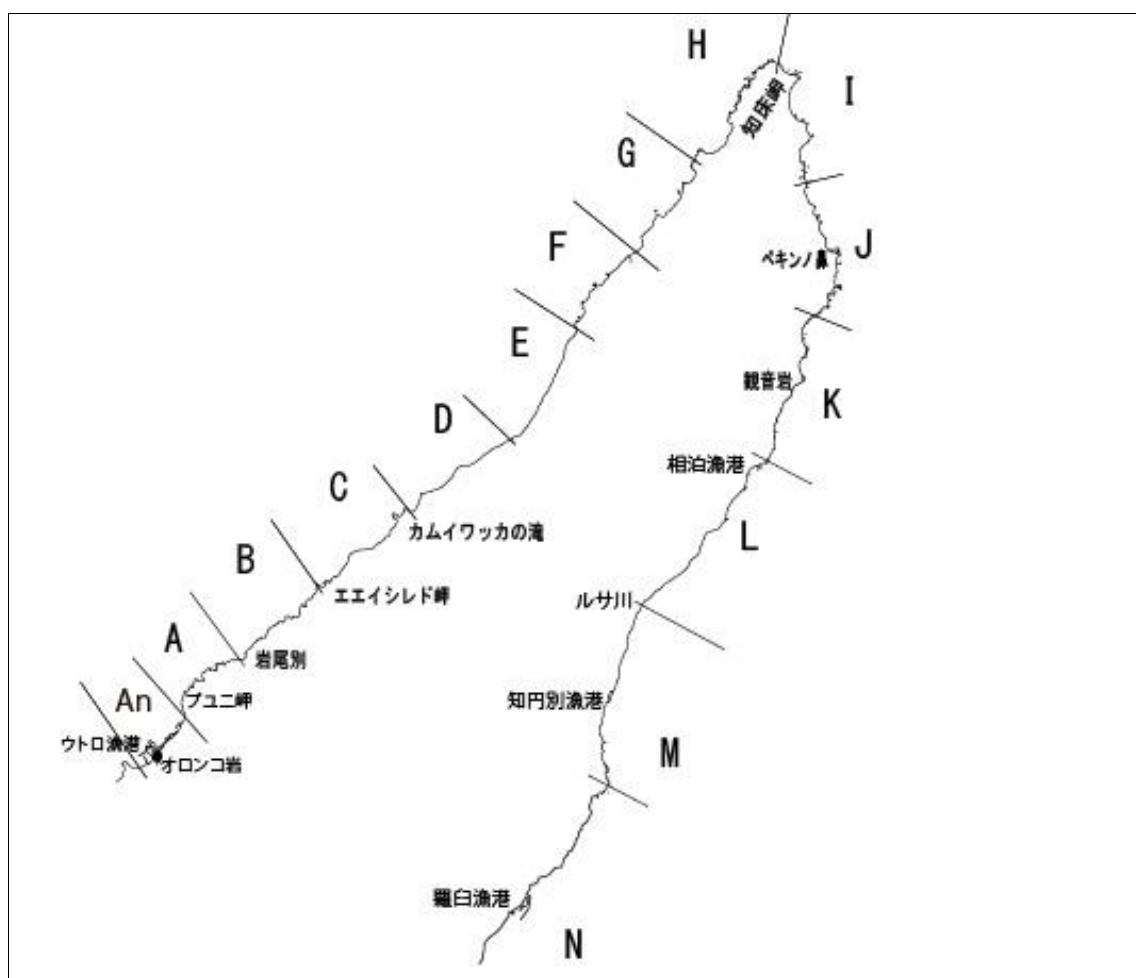


図-1) 知床半島調査区分図

1) ウミウ

表－1) ウミウの区域別営巣数の経年変化（1997年～2006年）

区域/年	1997年	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	
An	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	斜里側
A	270	194	200	214	157	63	231	97	218	304	
B	140	159	162	209	0	114	229	137	200	206	
C	0	0	0	0	0	80	0	0	—	0	
D	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	
E	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	
F	44	66	49	67	96	0	14	15	—	14	
G	2	20	1	23	46	0	0	63	—	33	
H	106	163	106	107	79	48	64	64	—	144	
Total	562	602	518	620	378	305	538	376	418	701	
I	—	—	—	—	—	—	—	54	—	0	羅臼側
J	—	—	—	—	—	—	42	37	—	36	
K	—	—	—	—	—	—	0	0	—	10	
L	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
M	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
N	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
Total	—	—	—	—	—	—	42	91	—	46	
知床半島全体											
Total	562	602	518	620	378	305	580	467	418	747	
区域/年	1997年	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	

表－2) ウミウの区域別営巣数の経年変化（2007年～2016年）

区域/年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	
An	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	斜里側
A	214	338	559	302	259	298	92	90	291	153	
B	127	113	137	157	76	75	19	161	145	62	
C	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
D	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
E	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
F	7	21	14	19	0	36	0	10	10	0	
G	0	9	21	0	0	9	0	9	0	0	
H	51	62	24	91	51	79	44	37	78	88	
Total	399	543	755	569	386	497	155	307	524	303	
I	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	羅臼側
J	41	62	44	54	46	0	0	7	0	0	
K	5	5	7	19	7	36	10	0	14	0	
L	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
M	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
N	—	—	—	—	—	—	—	—	18	12	
Total	46	85	51	73	53	36	10	7	32	12	
知床半島全体											
Total	445	628	806	642	439	533	165	314	556	315	

表-3) ウミウの区域別営巣数の経年変化 (2017年~2025年)

区域/年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	
An	0	0	0	100	43	68	33	0	44	斜里側
A	70	59	88	53	59	76	55	66	71	
B	25	133	78	67	4	41	0	12	18	
C	0	0	0	14	0	0	0	0	0	
D	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
E	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
F	0	0	0	0	7	1	0	4	0	
G	0	0	0	0	0	0	22	5	0	
H	78	34	35	80	47	53	9	69	88	
Total	173	226	201	314	160	239	119	156	221	
I	0	0	0	0	0	47	0	0	0	羅臼側
J	0	0	0	24	25	0	22	21	11	
K	14	25	29	0	0	0	0	0	0	
L	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
M	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
N	0	0	2	7	9	5	0	0	0	
Total	14	25	31	31	34	52	22	21	11	
知床半島全体										
Total	187	251	232	345	194	291	141	177	232	

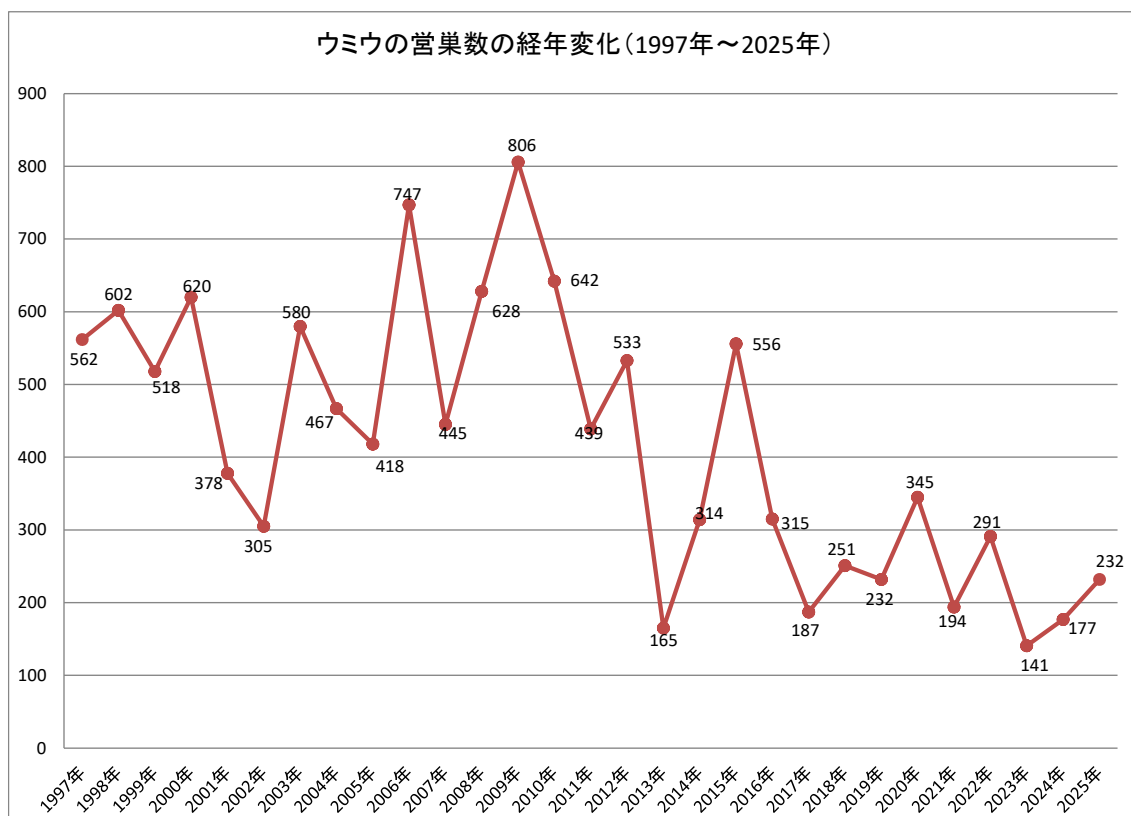


図-2) ウミウの営巣数の経年変化

2025年の営巣数は232巣で前年の177巣よりも55巣増加した。しかし、2009年の806巣から比較すると増減を繰り返しながら減少傾向にある。2025年にもっとも営巣数の多か

った場所は知床岬に近いウトロ側の獅子岩で75巣であった。ウトロ市街地のオロンコ岩では44巣が確認された。前年はオジロワシが頻繁に飛来し営巣を放棄していた。本年もオジロワシは頻繁に飛来していたものの繁殖活動を維持していた。

2) オオセグロカモメ

表-4) オオセグロカモメの区域別経年変化 (1997年～2006年)

区域/年	1997年	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	
An	Aに含む										釧路側
A	599	637	785	569	806	642	806	784	760	1046	
B	139	238	223	354	421	31	109	95	100	91	
C	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	
D	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	
E	0	0	0	0	0	0	0	12	—	0	
F	73	271	355	191	21	20	63	16	—	81	
G	29	68	62	36	0	0	28	20	—	34	
H	80	257	284	297	69	119	165	153	—	163	
Total	920	1471	1709	1447	1317	812	1171	1080	860	1415	
I	—	—	—	—	—	—	105	148	—	88	羅臼側
J	—	—	—	—	—	—	189	303	—	231	
K	—	—	—	—	—	—	23	77	—	63	
L	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
M	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
N	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
Total	—	—	—	—	—	—	317	528	860	382	
	知床半島全体										
Total	—	—	—	—	—	—	1488	1608	860	1797	

表-5) オオセグロカモメの区域別経年変化 (2007年～2016年)

区域/年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年		
An	Aに含む									256	303	釧路側
A	745	547	604	560	527	412	196	161	32	5		
B	63	15	50	46	0	18	0	0	0	3		
C	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
D	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
E	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
F	17	38	38	58	30	16	39	6	34	0		
G	10	4	9	4	10	4	7	10	15	8		
H	154	188	115	128	180	96	49	115	126	79		
Total	1016	792	816	796	747	546	291	292	463	398		
I	102	69	91	73	78	45	2	4	46	8	羅臼側	
J	238	239	220	219	194	164	11	46	66	33		
K	102	54	71	127	134	66	33	69	45	31		
L	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
M	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
N	—	—	—	—	—	—	—	—	—	325		
Total	442	341	382	419	406	275	46	119	157	397		
	知床半島全体											
Total	1458	1154	1198	1215	1153	821	337	411	620	795		

表-6) オオセグロカモメの区域別経年変化 (2017年~2025年)

区域/年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	
An	263	386	294	88	212	223	280	184	244	斜里側
A	8	5	0	37	4	17	14	17	12	
B	2	7	5	7	2	2	11	0	0	
C	0	0	0	1	0	0	0	0	0	
D	0	0	0	1	0	0	0	0	0	
E	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
F	4	8	2	0	2	1	4	11	0	
G	2	6	0	0	0	12	7	38	5	
H	97	75	65	101	69	65	61	128	108	
Total	376	487	366	235	289	320	377	378	369	
I	9	23	18	2	11	41	39	8	9	羅臼側
J	51	54	40	49	58	27	135	15	35	
K	34	15	71	12	15	18	6	10	5	
L	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
M	0	0	0	76	57	47	61	49	62	
N	235	263	205	131	171	257	345	264	235	
Total	329	355	334	270	312	390	586	346	346	
知床半島全体										
Total	705	842	700	505	601	710	963	724	715	

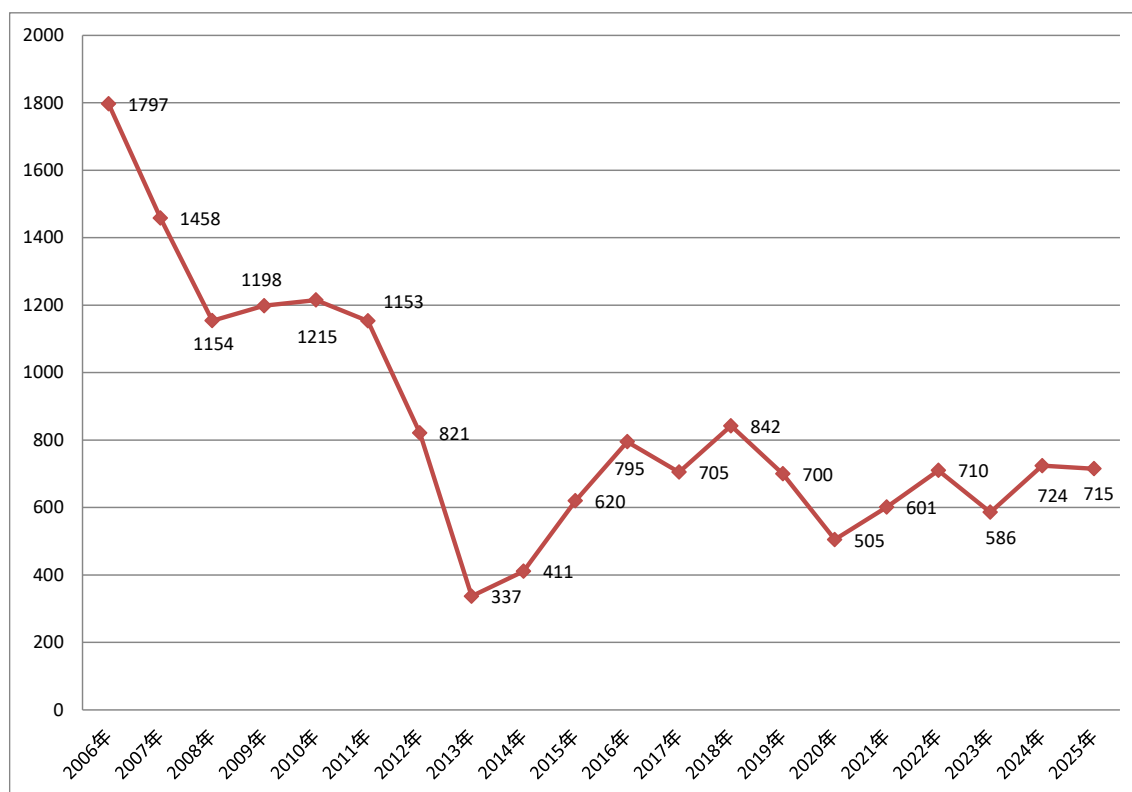


図-3) オオセグロカモメの営巣数の経年変化 (2006年~2025年)

2025年の知床半島全体におけるオオセグロカモメの営巣数は715巣であった。1997年以降の最大営巣数は2006年の1727巣であった。しかし、この年は羅臼市街地や羅臼漁港での営巣数は数えられておらず、おそらく2000巣以上の営巣数があったと予想される。2020年には知床半島全体で505巣に減少した。2021年は601巣と2022年は710巣と増加したが2023年は586巣に減少し、2024年は724巣・2025年は715巣であった。これは誤差の範囲であり、ほぼ同じであると考えられる。

羅臼漁港の防波堤では6月18日に177巣を確認し、7月17日に雛が104羽・7月28日には雛が41羽となり、8月18日には巣立ち前後の幼鳥が20羽観察された。177巣で約20羽が巣立ったと考えられる。知円別漁港では、6月18日に48巣を確認し、7月14日には雛33羽、7月28日には雛4羽、8月18日には巣立ち前後の幼鳥が3羽確認された。オオセグロカモメの産卵数は3卵であり、それを考慮すると、かなり低い巣立ち率だと思われる。羅臼漁港と知円別漁港ともにオジロワシの捕食圧が影響して繁殖成功率が低下していると考えられる。

また、知床岬に近いタカサラウニではNHKの撮影でヒグマがオオセグロカモメの雛を捕食するところが撮影され、7月23日にはオロンコ岩でオオセグロカモメの雛を捕えたオジロワシが幌別方面へ飛去するところが観察された。

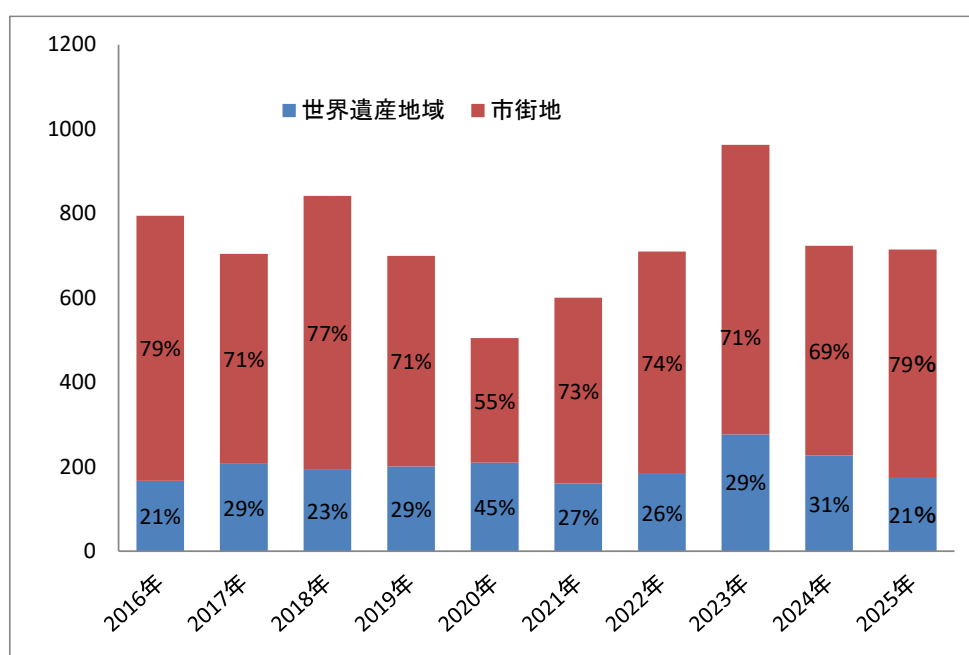


図-4) オオセグロカモメの市街地と世界遺産地域との割合 (2016年～2025年)

2025年は市街地の営巣数の割合が79%と世界遺産地域が21%と大幅に市街地での営巣数の割合が多かった。これは、ヒグマやオジロワシからの捕食を逃れる要因も強いと思われる。しかし、羅臼漁港や知円別漁港そしてオロンコ岩においてもオジロワシの捕食圧が

あり、今後どのように営巣数の割合が変化して行くかを注意深く観察する必要がある。

3) ウミネコ

表一7) ウミネコの区域別営巣数の経年変化 (1997年～2006年)

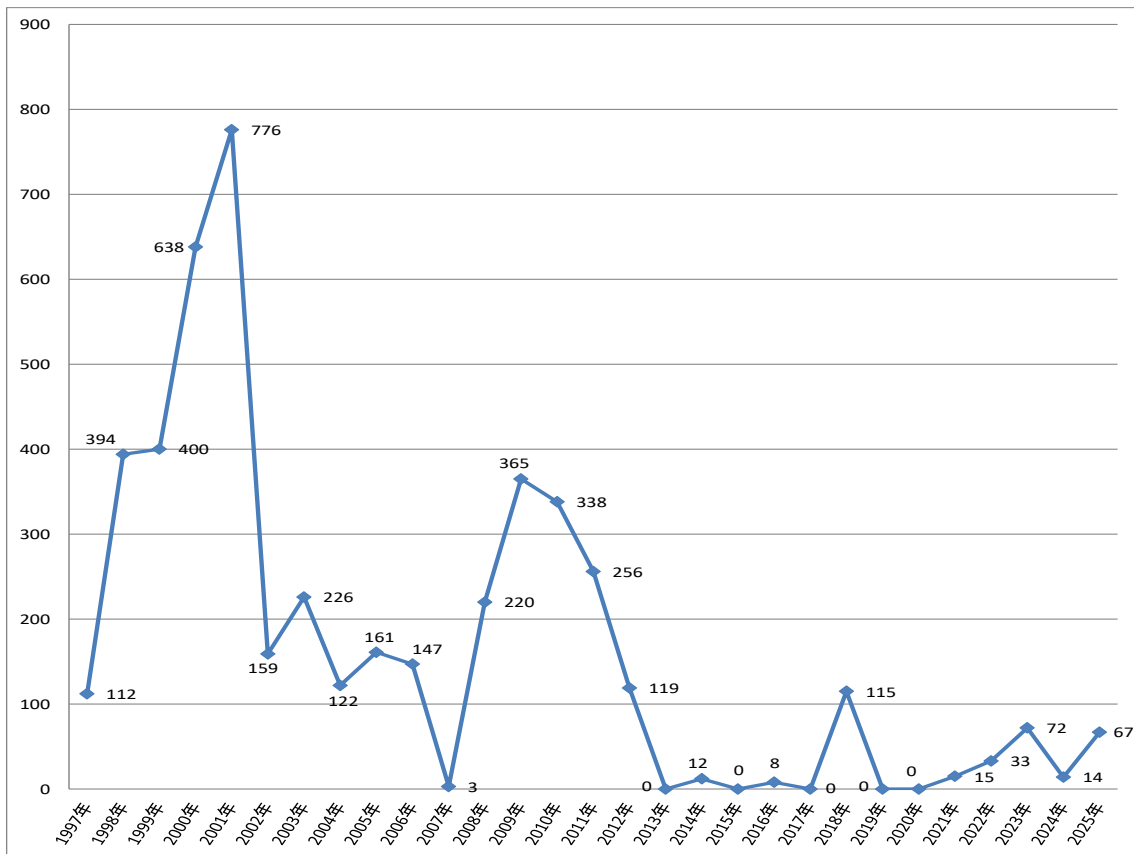
区域/年	1997年	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	
An	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	斜里側
A	94	280	346	612	772	159	226	122	134	0	
B	18	114	54	26	4	0	0	0	27	147	
C	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
D	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
E	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
F	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
G	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
H	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
Total	112	394	400	638	776	159	226	122	161	147	
I	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	羅臼側
J	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	
K	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	
L							0	0	0	0	
N							0	0	0	0	
M							0	0	0	0	
Total	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	
知床半島全体											
Total	—	—	—	—	—	—	226	122	161	147	

表一8) ウミネコの区域別営巣数の経年変化 (2007年～2016年)

区域/年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	
An	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	斜里側
A	0	6	166	56	0	0	0	12	0	8	
B	3	214	199	282	256	119	0	0	0	0	
C	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
D	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
E	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
F	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
G	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
H	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
Total	3	220	365	338	256	119	0	12	0	8	
I	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	羅臼側
J	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
K	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
L	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
N	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
M	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
Total	0	0		0	0	0	0	0	0	0	
知床半島全体											
Total	3	220	365	338	256	119	0	12	0	8	

表一8) ウミネコの区域別営巣数の経年変化 (2017年～2025年)

区域/年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	
An		10	0	0	0	0	0	0	0	斜里側
A	0	105	0	0	0	28	41	14	67	
B	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
D	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
E	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
F	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
G	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
H	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
Total	0	115	0	0	0	28	41	14	67	
I	0	0	0	0	0	0	0	0	0	羅臼側
J	0	0	0	0	15	5	31	0	0	
K	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
L	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
N	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
M	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
Total	0	0	0	0	15	5	31	0	0	
知床半島全体										
Total	0	115	0	0	15	33	72	14	67	



図一5) ウミネコの営巣数の経年変化

2025年の営巣数は67巣であった。前年は14巣であったため53巣の増加である。営巣地は全てウトロ側のA域の象の鼻の南側にある湾の斜面であった。6月30日には3巣

で雛が2羽+2羽+3羽確認された。7月19日には巣立ちした幼鳥が1羽観察された。繁殖成功率は非常に悪い状況である。

4) ケイマフリ

ウトロ漁港からエエイシレド岬までの区間において、6月～8月中旬にケイマフリの生息・営巣数および親鳥がヒナに給餌する食物の調査を実施した。

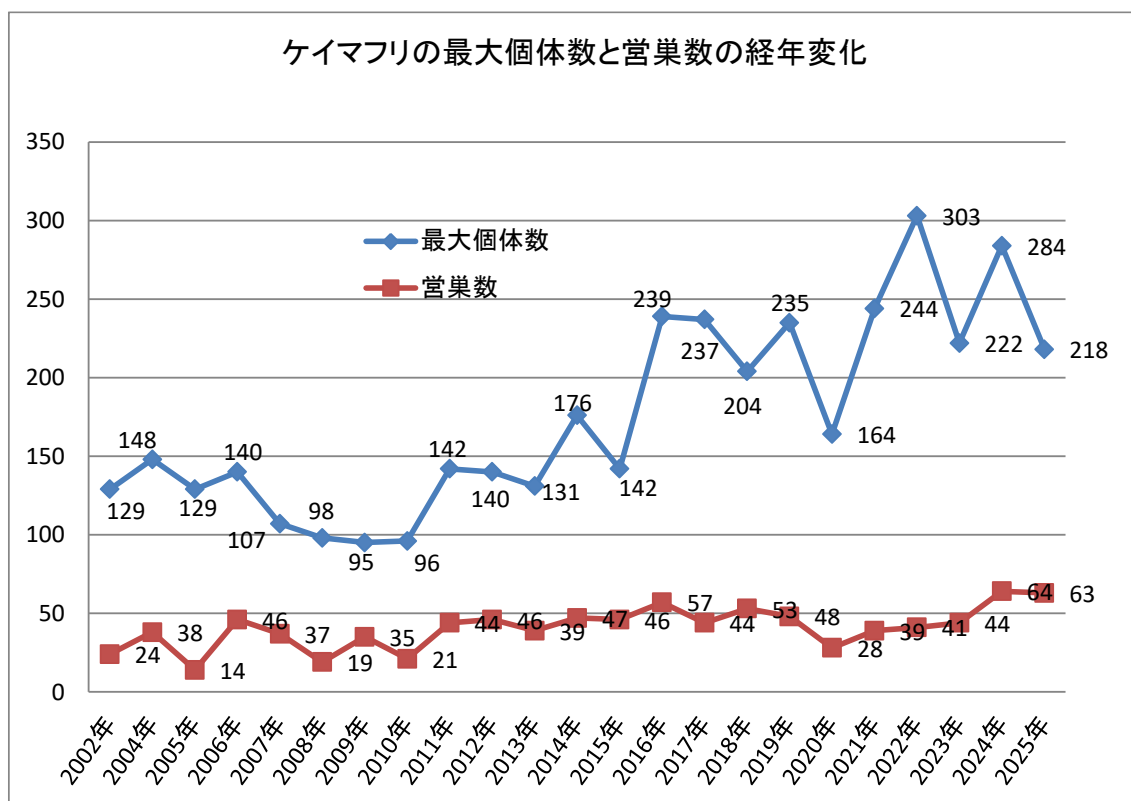


図 - 6) ケイマフリの営巣数の経年変化 (2002年～2025年)

表 - 9) ケイマフリの海域別経年変化

地域名/年	2002年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
プユニ岬～男の涙	10	11	7	25	24	6	25	9	23	21
男の涙～象の鼻	10	3	0	4	1	1	1	3	6	4
象の鼻～岩尾別	1	4	5	8	2	0	1	1	0	1
岩尾別台地	0	12	2	4	7	8	4	6	5	8
知床五湖の断崖	0	1	0	2	2	4	3	2	9	11
トークシモイ	3	7	0	3	1	0	1	0	1	1
Total	24	38	14	46	37	19	35	21	44	46

地域名/年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
プユニ岬～男の涙	19	25	25	26	18	34	26	10	21	27	21	40	33
男の涙～象の鼻	4	4	2	0	4	5	8	3	2	2	4	3	6
象の鼻～岩尾別	0	0	1	3	2	0	0	1	1	0	2	2	1
岩尾別台地	10	12	7	25	15	3	6	11	12	9	12	14	21
知床五湖の断崖	6	5	10	2	6	4	2	1	2	1	0	1	1
トークシモイ	0	1	1	1	1	7	6	2	1	2	5	4	1
Total	39	47	46	57	46	53	48	28	39	41	44	64	63

2025年の最大個体数は7月13日の218羽であった。営巣数は63巣を確認した。最大個体数は前年の2024年の284羽と比較して66羽減少した。営巣数は2024年が64巣だったためほぼ変わらない状況である。

ケイマフリの餌構成

表 - 10) ケイマフリの餌構成の経年変化

No	月日	イカナゴ	カレイ類	カジカ類	ギンポ類	不明	合計
1	6月17日	1	1				2
2	6月29日	16	12	2		12	42
3	6月30日	6	6			8	20
4	7月4日	9	1			1	11
5	7月7日	3	2		1		6
6	7月9日	1					1
7	7月13日	3				2	5
8	7月19日	1	1			1	3
9	7月20日	10	5	1	1	5	22
10	7月23日	3	3			2	8
		53	31	3	2	31	

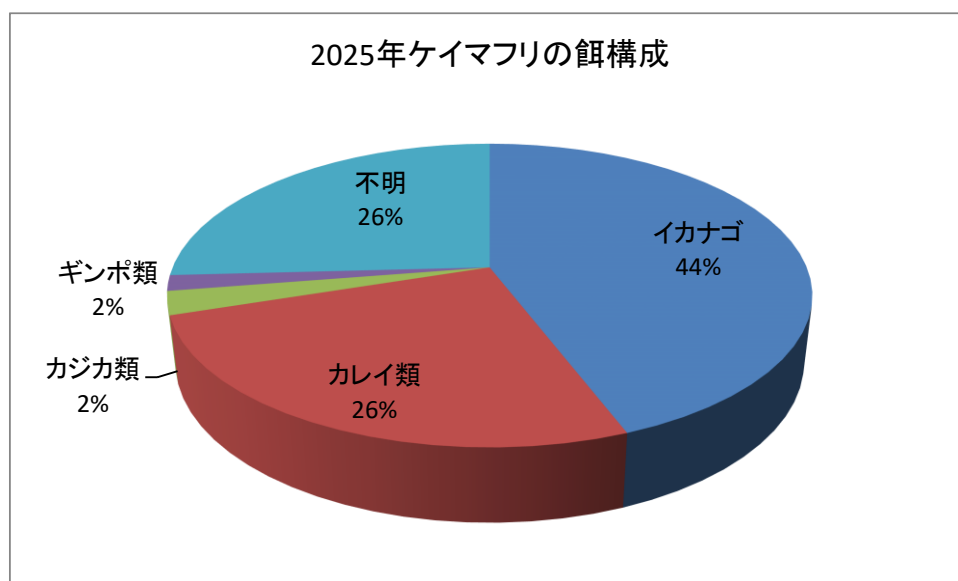


図 - 7) 2025年ケイマフリの餌構成の割合

表 - 10) ケイマフリの餌構成の経年変化

	2011年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
イカナゴ	80%	76%	88%	94%	97%	96%	94%	94%	76%	48%	75%	55%	85%	44%
ギンポ類	6%	10%	7%		3%	4%	3%	1%	4%	9%	15%	17%		2%
カレイ類	1%	2%							8%	13%	3%	10%	5%	26%
カジカ類	5%	7%	5%	3%					4%	3%	2%	12%		2%
エゾメバル									6%					
カタクチイワシ	2%												7%	
不明		5%		3%			3%	3%	2%	27%	5%	6%	3%	26%

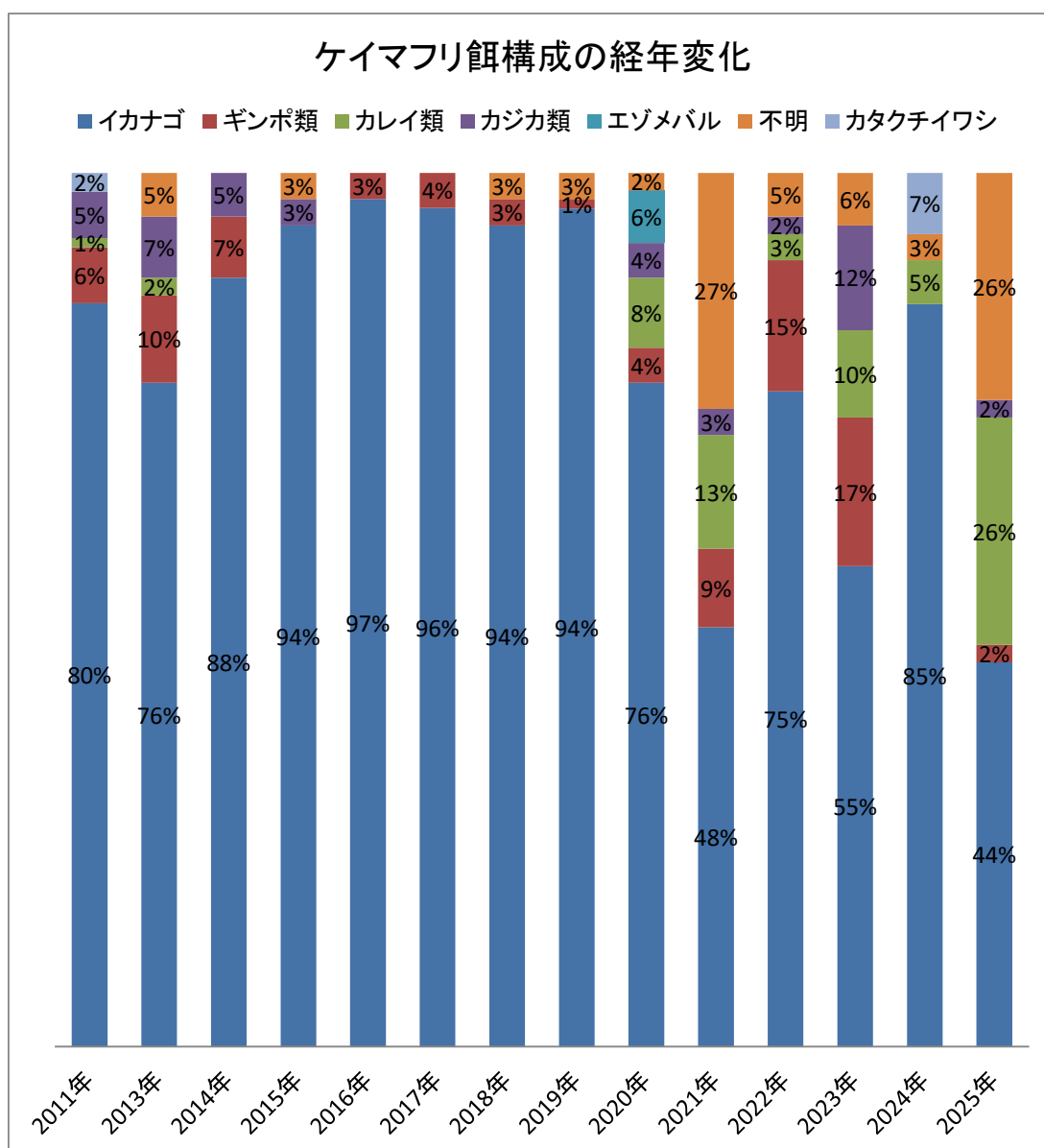
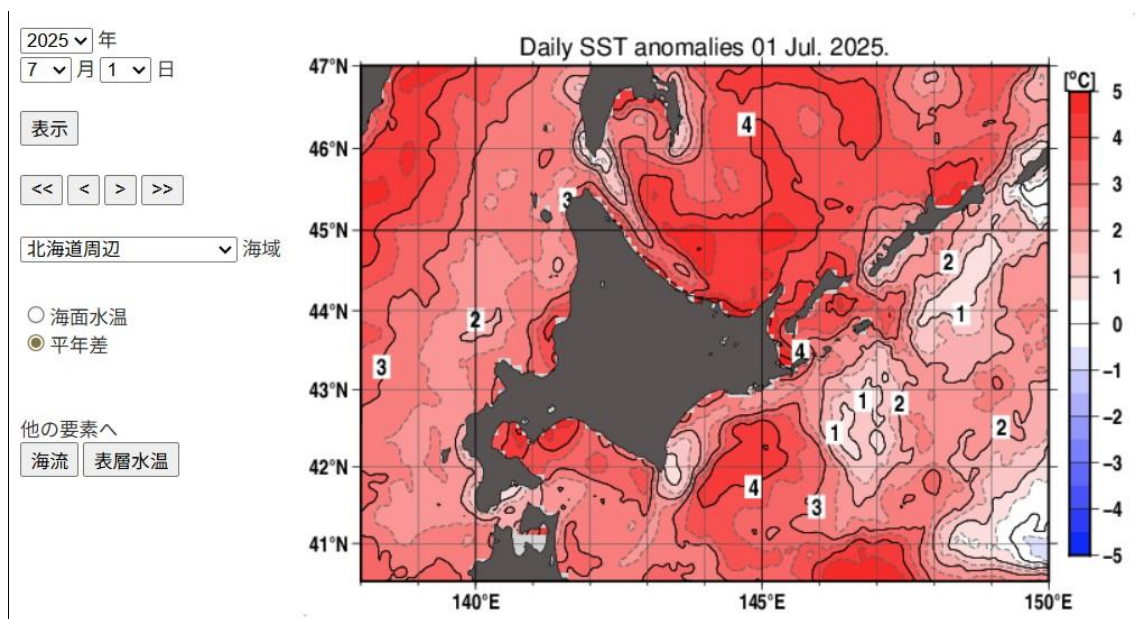


図 - 8) ケイマフリの餌構成の経年変化 (2011年～2025年)

ケイマフリの生息状況を知る上で重要な餌構成についての調査も行った。この調査はケイマフリの生息海域の小魚の生息状況も推察することができる。2025年のケイマフリがヒナのために持ち帰る餌構成は、イカナゴ 53 例 44%・カレイ類 31 例 26%でカジカ類 3 例 2%・ギンポ類 2%で不明種 31 例 26%であった。不明種は形からイカナゴでもカレイ類でもない種であった。2011年からの餌構成の調査の中でイカナゴの割合が最も低い 44%であった。イカナゴは高い海水温を避けるため今年は海水温が高い状況が続いたことからイカナゴの生息数が少なかったと考えられる。



図一9) 2025年7月1日の日別海面水温の平年比